

JCCA

Shikoku Branch, Japan Civil Engineering Consultants Association



Vol.04
2020.8

1 巻頭言「ネクスト「四国の夢」」

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 四国支部長 末澤 等

2 巻頭言「四国地方整備局における働き方改革と
担い手確保等の推進について」

国土交通省 四国地方整備局長 丹羽 克彦

3 特別寄稿「高松藩を測った人—久米栄左衛門」

8 土木関係トピックス

四国地方整備局からのお知らせ ～円滑な発注の確保に向けた対策等～

徳島県からのお知らせ

香川県からのお知らせ

愛媛県からのお知らせ

高知県からのお知らせ

13 支部だより

総務部会 / 対外活動部会(業務) / 企画部会 / 技術部会 / 資格・情報部会 / 志国若手の会

20 令和元年度 優秀建設技術者(業務)表彰

四国地方整備局長表彰 / 事務所長表彰

26 会員紹介

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

株式会社片平新日本技研

エスシー企画株式会社

構営技術コンサルタント株式会社



34 役員名簿 / 部会名簿 / 会員名簿

編集後記

久米栄左衛門(1780～1841年)は、高松藩領において、天体観測や、測量機器・時計・鉄砲や大砲などの製作、讃岐の測量、塩田開発、銅山設備の改良、港湾の築造など、多くの事業を高い水準において成し遂げた人物です。

表紙写真



写真提供:
「公益財団法人
鎌田共済会郷土博物館」



ネクスト「四国の夢」

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 四国支部長 末澤 等

今号より、毎号の巻頭言を支部長が書くこととなりましたので、よろしくお願いします。

今回のテーマは夢の話です。夢と言っても、ここでは社会インフラ整備の一端を担っている者として、次の「四国の夢」、つまりネクスト「四国の夢」について考えます。

新しい令和の年となった昨年は、香川用水通水45周年、四国新道（今の国道32、33号）開通125周年、そして一昨年は瀬戸大橋開通30周年を迎えました。これらは、いずれも120年以上も前に、当時の香川県議であった大久保謙之丞が描いた夢であり、その後、四国4県が中心となり「四国はひとつ」のスローガンのもと努力し、実現に成功したものです。

当時は夢のようであったこれらの構想が実現した今、次の「四国の夢」についての検討が始まっており、その一つが「四国の夢プロジェクト」です。このプロジェクトは、大学、四国地方整備局、（一社）建コン協四国支部、（一社）四国クリエイティブ協会等で構成する「四国の夢プロジェクト実行委員会」（委員長；長谷川修一 香川大学教授）が一昨年より進めており、四国の50年先、100年先の「夢」のようなプロジェクトなどを募集、選定・発表し、これにより四国の方々に希望と活力を与え、未来の元気で豊かな四国造りと地域活性化の実現に寄与することを目的としています。募集テーマは『豊かな「四国の未来に向けて」「あったらいいのに」「出来るかもしれない」生活が便利になるアイデ

ア』で、【小学生・中学生の部】と【高校・大学・一般の部】に分けて募集・審査等を行っています。一昨年、昨年と2回の募集で計292件の応募があり、そのなかには、四国の島・海・山などの自然を活用した観光施設や四国新幹線の整備、ゴミや地球温暖化など環境問題への対応、海・陸・空を自由に移動できる乗物、飲めば栄養の補給と癌・難病の撲滅ができる薬等々多岐にわたり、今後の四国の夢にふさわしいものも数多くありました。

このようななか、先日公表された四国4県の総人口は、昨年10月時点で372万人、前年より約3万人（0.9%）減少し、また今年4月の人口推計（総務省発表）によれば、今後、4県はいずれも人口減少の加速が懸念されています。

この人口減少については、昨年発行された「未来の地図帳」（河合雅司著）のなかで、人口が減ったならば減ったサイズで戦略的に縮み、“身の丈に合った社会”を築いてゆこうという発想で、ドット型国家（都市）への移行こそが豊かさを維持し続ける唯一の策であり、真の意味での地方創生になるとされています。

これらのことを踏まえると、次世代に活力のある四国を引き継ぐためには、今こそ次の四国の夢を描き、人口減少に伴う様々な課題の解決と地方創生に向けた取り組みを行うことが重要であり、我々コンサルタントはその一翼を担ってゆく必要があると考えます。若い土木建築技術者の今後の大いなる奮闘を期待します。





四国地方整備局における働き方改革と 担い手確保等の推進について

国土交通省 四国地方整備局長 丹羽 克彦

1. はじめに

日頃より私どもが進めております四国の社会資本整備につきまして、皆様方の多大なるご支援、ご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下で、ご自身およびご家族の感染のリスクと不安の中、事業所等の感染防止のための取り組みを進めつつ、献身的に測量・調査・設計等の業務を行っていただいている皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

2. 四国地方整備局の取り組みについて

建設産業は、頻発する災害への対応や地域のインフラ整備などを着実に実施するうえで、極めて大きな役割を担っており、建設業が国民の安全・安心の確保を担う「地域の担い手」としてその使命を果たしていくためには、働き方改革を進めながら、担い手の確保を図るという喫緊の課題に対応していくことが急務となっています。

そのため、建設業が将来にわたって持続的に活躍していけるよう、令和元年6月に「新・担い手三法」が改正され、そのうち、工事に関する調査等（測量、地質調査その他の調査（点検及び診断を含む。）及び設計）も建設段階及び維持管理段階を通じた総合的なコストの縮減と品質向上に寄与するなど重要な役割を果たしていることから、「公共工事に関する調査等」が、新たに広く品質法の対象として位置づけられ、基本理念及び受発注者の責務等の各規定の対象として追加されたところです。

このような状況の中、四国地方整備局では、若者が将来への夢と希望をもって建設業界に入職し、魅力ある業界へ発展していくよう、「働き方改革の推進」「生産性の向上」「人材育成」を三本柱に、各種取り組みを進めています。

「働き方改革の推進」では、履行期限の平準化の取り組みとして、測量業務、地質調査業務、土木関係建設コンサルタント業務を対象に、四半期毎に目標を設定し、更なる分散を図るとともに、日々の業務執行を効率化するため、

引き続き「業務スケジュール管理表」や「条件明示チェックシート」等の実施を徹底し適切な履行期間の設定に努めています。

「生産性の向上」につきましては、BIM/CIMの活用として、平成30年度より大規模構造物の詳細設計業務を原則対象とし、さらに、概略設計・予備設計においても積極的に推進することとしています。

「人材育成」については、「令和2年度四国地方整備局総合評価落札方式等に係る実施方針」の業務の入札契約制度において、「管理技術者等に年齢制限を設定する試行」や「経験豊富な建設シニアからの技術継承を促す試行」など、地域の技術者の育成を企図した評価に引き続き取り組んでいるところであり、試行結果を踏まえ、適時見直しを行ってまいります。

また、平成30年度から四国地方整備局と建設コンサルタント協会四国支部と官民の枠を超えた若手技術者の交流会を行っているところであり、今後も継続して参ります。

3. おわりに

四国は全国に比べ人口減少が約25年、老年人口割合が約10年早いペースで進展しており、建設産業ではその傾向が顕著となっています。

建設業をより魅力ある産業とし、将来の担い手を確保するためには、災害時の緊急対応、生産性向上への取組、測量・調査及び設計の品質確保等の取組を強力に推進していくことが不可欠です。

まずは、新・担い手三法の円滑な施行を図りつつ、建設業の働き方改革の実現に向けたさらなる改善に取り組んでまいります。

貴協会におかれましても、今後とも時代の新たなニーズに的確に対応され、業界並びに建設業全体の発展にご尽力いただきますようよろしくお願い致します。

高松藩を測った人

久米栄左衛門

御厨義道



久米栄左衛門像
(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)

江戸時代の高松藩出身の科学者、というと、最初に名前があがるのは、平賀源内だろう。海外からもたらされたエレキテルをみて原理を理解、修理して活用したことは有名な話のひとつであろう。科学の分野だけではなく、すぐれた文学作品を遺し、源内焼という独創的な焼物も始めている。幅広い分野で活躍し、それぞれが驚くような成果をのこしている。

この平賀源内に勝るとも劣らない讃岐出身の人物がいる。今回紹介する久米栄左衛門である。「高松藩を測った男」と題したが、久米の遺した業績はそれにとどまらない。実に幅広い分野で業績を遺している。

1 高松藩を測る

江戸時代の初め、徳川幕府は海外との交流を制限する政策をとった。歴史の教科書などでは「鎖国」と表現されるが、文字からうける印象とはやや異なり、外国とのつきあいが全くなかったわけではなかった。中国、朝鮮、オランダなどの外国との交流は江戸時代を通じて続けられていた。しかし、制限されたものであったことは間違いない。

そうした政策に強い揺らぎがみえてくるのが、江戸時代後期である。ロシアの南下政策により、日本海側を中心に外国船が日本近海に姿を見せるようになる。幕府にとって沿岸防備政策は重要な課題となったのである。

こうした状況の中、幕府だけではなく、一部の大名や知識層も対外的な危機感を募らせていた。海外の知識を仕入れ、外国の脅威に対抗する必要性が説かれるようになる。

対外的危機感という背景のもと、沿岸の様子を正確に把握することの重要性がみえてくるようになる。有名な伊能忠敬による全国の測量とそれに基づく沿岸地図の制作の背後にはこのような状況があった。

沿岸状況の把握は幕府だけではなく、一部の大名も実施した。高松藩もそのひとつである。一口に沿岸の把握といっても簡単なことではないことは想像に難くない。高度な専門知識と技術が必要とされるわけだが、そこで登場するのが久米栄左衛門である。

文化3(1806)年、久米は高松藩の命をうけて、藩領の沿岸測量を実施する。11月14日に引田浦通念島を出発点とし測量を開始、沿岸部を西にすすみ、12月13日までかけて土器川に到着。その後同川をさかのぼり、途中から往還筋(街道)に入って東に向かい12月20日に出発点に戻った。

測量方法は標準的なもので、2点間の距離と方位を測ることを繰り返していくもので、導線法と称される。久米家に伝わっていた古文書や記録類の中には、この時行った測量データを書き記したものがいくつか含まれている。現地で距離や方位や数値を書き込んだ帳簿のほか、沿岸の様子を描いたラフスケッチもある。方位や数値のデータは最終的にまとめられ浄書された。

久米の測量データには特徴的な部分がある。方位を示すデータに「先」「前」という文字が付いている。例えば次のよう



測量絵図帳
(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)



往還筋方位記
(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)

な表記である。

前右七十〇度 索三十八間七合

先右七十一度 索七十七間四合

「前」「先」は、方位磁針の針先の位置を示すための用語になる。ある地点から円盤状の磁針の中心線を目標物に向けると、針は北を示す。その時の位置を方位角として読み取るが、久米は磁針の円盤を中心線に直交する線で二分し、前方側（対象物側）を「先」とし、後方側（観測者側）を「前」と名付けた。その上で針の向きが「先」や「前」の右に何度振れているか、もしくは左に何度振れているかを記録したのである。読み取り角度は0度から90度までに収まり、見たままを記録していけばいいのであるから、方位角の読み取りを速やかにかつ正確に行うための工夫であると考えられる。

「先」「前」の名称はどこからきたのか。一見すると、どちらも同じような意味に思え、理解しがたい。実は、これは久米の活動を大きく関わっている。後に触れるが、久米は銃砲開発の分野でも活躍しており、「先」「前」は火縄銃の部分名称からきているとみられる。火縄銃には、「目当」と呼ばれる照準器がついているが、銃口側（対象側）の目当を「先目当」、射手側（手前側）の目当を「前目当」と呼ぶ。この火縄銃における「先」「前」の考え方を方位磁針の読み取りに応用しているのである。

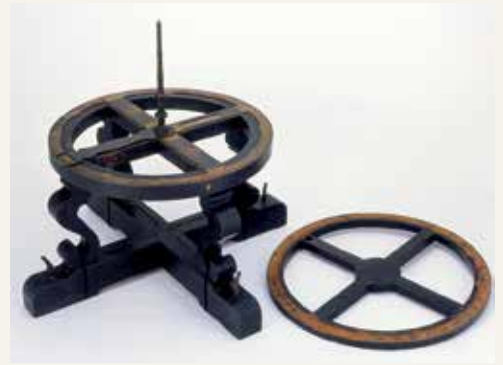
さらに、測量について、久米の独自性が発揮されたのが、器具である。伊能忠敬も全国測量を実施するにあたって独自の工夫を加えた器具を用いたが、久米もまた同様なことを行っている。

久米が用いた方位を測定する器具に「地平儀」がある。大型の円盤の上を円周にそってスライドする板を置き、目標物にむけると方位を測ることができるものである。形状や形式はそれまでの測量器具になかったもので、久米が独創した。全くのゼロから創り出したのではなく、中国の天文学書に着想を得ているようであるが、それにしても従来にない器具を地方で創り出した発想力は注目に値するであろう。

さらに、この器具には驚くべき機能が備えられている。バーニア副尺である。「なんだその程度か」と思われそうであるが、久米が活動していた江戸時代後期に国内でバーニア副尺の存在を知り、その原理を理解していた者はごくわずかだった。久米は「地平儀」の他にも天体の上下角を測定する「象限儀」にも同原理を用いており、バーニア副尺を応用した国内初の事例とする指摘もある。この副尺の存在により、久米の測量精度は伊能忠敬の測量結果の2倍以上になるといわれている。

久米のバーニア副尺の応用の話しは、最初に触れた平賀源内に通じるものがあるように思われる。平賀源内も、持参したオランダ人ですら機構がよく分かっていなかったエレキテルを観察して理解し、修繕を加えて機能を回復し、さらにエレキテルを自作している。教えられることなく、卓抜した頭脳で理解し、応用するあり方は久米と共通しているといえよう。さらにいうならば、よりよいものを製造することに長けた日本の技術のルーツともいえるのではないだろうか。

測量についての久米の独自性について述べて来たが、その精度はどれほどのものであったのか。藩の命によって制作された久米の地図原本は現存していない。しかし、久米関連の資料・遺品を多数所蔵する鎌田共済会郷土博物館には、久米が制作した地図の下書き「御内御用側量図下書」が遺されてい



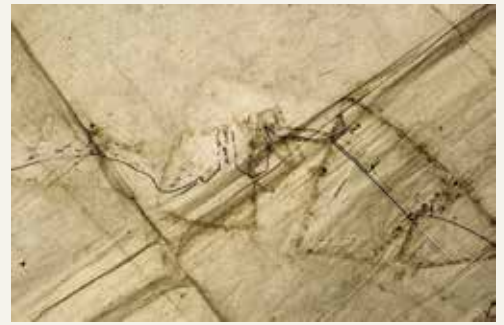
地平儀(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)



御内御用側量図下書部分 屋島
(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)

る（「側量」は誤字であるが、資料の表記のままにしている。実は久米の資料にはこの手の誤字が多数みられる）。描き出された海岸線は、現代の測量地図に迫るものがあり、久米の測量精度が高かったことが判明する。

測量結果から地図を制作するには知識と技術が必要である。いかに精度の高い数値が得られたとしても、正確に図化しなければ意味がない。この点については、十分な検討がなされていないが、ひとつの仮設が考えられる。単純に測量で得られた数値に基づいて、ある1点から順に描いていくと、描きすすむほどに誤差は大きくなっていく。これを解消するために久米は、海岸線を分割して描き、それを縮小して、つなぎ合わせるという作業を行ったのではないかと推測される。分割すると描く範囲が狭まるためその中で誤差は小さくなる。それらをつなぎあわせる際に周辺目標物との位置関係を確認していけば図化の精度をあげることができる、というものである。実際、久米の測量図下書きを観察すると、貼り合わせた様子を窺うことができ、この仮説はかなり実際に近いのではないかと予想される。



御内御用側量図下書部分 貼り合わせの状況
(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)

2 久米の学問的ルーツ

精度の高い測量地図を作り上げた久米栄左衛門であるが、ではその能力はどこから生まれたのであろうか。

久米が生まれたのは、高松藩の東端に位置する大川郡馬宿村（現東かがわ市引田）である。すぐ近くに引田浦があった。引田浦は古い時代から港としてにぎわう場所であり、江戸時代には廻船業、すなわち船による運送業がさかんな場所であった。船の利用が少なくなった現代では想像しがたいところであるが、引田は大坂をはじめとする畿内地域と直接つながることができる場所であり、人や物が大量に行き来していた。したがって、情報についても城下町高松に劣らない質と量もたらされていたとみられる。久米の活躍の背景にはこうした生まれた土地の環境が関係すると考えることができる。

久米の誕生は安永9（1780）年のことである。平賀源内が江戸の獄中で病死したのはその前年のことである。久米は源内と入れ替わるようにしてこの世に登場したことになる。久米家は、江戸時代初めに讃岐国を治めた生駒家に仕えていたといい、江戸時代半ばごろまでは庄屋を務めることもあった。また90石積と小規模ながら船も所有しており、農民ではあるが比較的安定した経済環境にあったとみられる。

どのような幼少期を過ごし、学問を身に着けたのかを知る資料は乏しく、くわしいことは分からない。はっきりするのは、寛政10（1798）年からで、この時大坂の町人天文学者間重富の門下に入る。間は高橋至時とともに幕府の改暦事業に関わった人物で、当時の天文学の最高峰に位置していた。久米がどのような経緯で間門下に入ることができたのかは不明であるが、生地の引田が畿内との密接なつながりがあったこと、高松藩が関わっている可能性があることなどが考えられる。間門下で学んだのは4年間で、ここで久米は最先端の天体観測器具を目にする。初めて見たであろう機器類を久米は自製し、師匠の間重富の子重新をして「機工ノ事ニ於テ頗ルーノ秀才トス」と言わしめるほどの才能を発揮する。間門下に入った時にすでに久米の能力は開花していたのであり、それを培ったのは讃岐の地であった。中央で活躍する



久米栄左衛門生家
(鎌田共済会郷土博物館蔵、重要文化財)

人々を驚かせるほどの才を育てるだけの学問的な環境が整っていたことを意味する。

以降の久米はだれかの下について学んだという形跡はうかがわれない。ほぼ独学で身に着けた可能性があり、非常に優れた能力をもつ人物であったことがこのことから分かる。

間重新は、「機工」すなわち機械の原理・機構に対する久米の理解力と応用力を褒めると同時に、天文学の習得については厳しい評価を下し、久米による天体観測データは信頼度に欠けるとも言っている。久米は、理論を積み上げて学問的究明を求める学者タイプではなく、理論の実地応用や制作に力を注ぐ技術者タイプであったのであろう。

3 新式銃を創り、塩田を造った人

精度の高い測量結果と地図を遺した久米であるが、その成果はごく初期のものであって、帰着点ではない。そのことにも驚くが、その後の活躍もまたすごい。

久米が生涯取り組んだ事業は、測量や天体観測ではなく、銃砲開発であった。久米が活動していた時期は、先に触れたとおり対外的な危機感が徐々に強まりつつあった。知識層の間では海外の事情についての情報や知識が交換されており、現状の日本の軍事力では外国に対抗しがたいのではないかという危惧が持たれていた。久米もその一人であり、解決方法のひとつとして新式銃砲の開発に着手し、この活動は晩年まで続いている。

久米が課題としたのは、火縄銃から脱却し新しい発射方式をもつ銃砲を創り出すことであった。当時の日本の火器は火縄銃を中心としており、大型火砲もあったが旧態然としたものであった。久米はまず銃砲の着火方式の改良を試みる。火縄銃は、火縄についた口火を発火薬に近づけることで得られた火力を発射薬がうけて爆発し弾丸が発射される、というものであった。裸火を持っていることが必要となり、安全性や雨が降った時の対処がしにくいといった問題があった。

久米は火縄のかわりに、火打石に金属をこすりつけることで生まれる火花を用いることを発想した。渦巻きバネを利用した機構を銃に仕込み、回転する金属板と火打石の摩擦で火花が得られるようにした。名付けて「輪燧佩銃」という。着想は外国のフリントロック式とよばれる銃から得たと見られる機構であるが、金属に火打石を打ち付ける形式に比べ、火花が長く発生するようにしている点が工夫改良されている部分である。また、手に持って銃を撃つというだけでなく、鍵に副わせて敵に気付かれないように用いる銃も開発しており、従来のあり方から大きく脱却しようとする姿勢が強く表れている。

晩年には雷汞（雷酸第二水銀）という衝撃や摩擦で発火爆発する薬品を製造することに成功し、これを活用した銃砲を考案した。雷汞を利用することによる銃砲の小型化を図り、手の中に隠れてしまうほどのサイズの「掌中銃」（極密銃、芥砲）を製造している。その他、火縄銃サイズや大型砲、ハンドガンサイズの銃等多様なかたちでの応用も試みている。

久米は、坂出塩田を造った人物でもある。業績全体の中では、塩田築造が



極密銃(高松松平家歴史資料、香川県立ミュージアム蔵)



坂出鹽田図
(高松松平家歴史資料、香川県立ミュージアム保管)

最も知られているのかもしれない。しかしこれまでみてきたように国内有数の面積を誇った塩田を造ったことは彼の業績の一部でしかない。そう考えると久米という人物の活動の大きさに改めて敬服する。

塩田の築造は当時の高松藩が抱えていた藩財政を立て直すと同時に、藩内経済の振興を目指したものであった。久米は塩田開発とあわせ、当時盛んであった砂糖生産についても流通制度改革を提案している。塩田は大きな経済施策の中に組み込まれて構想されており、久米が経済や流通にも精通したエコノミストとしての側面をもっていたことが分かる。砂糖流通に関する提案は、形をかえて藩の政策として実施され、塩田築造は久米に任された。ともに江戸時代後期における高松藩の財政を支え、財政難を抱える藩が多かった時代に比較的安定した経済状況を保つことができたのである。

4 おわりに

久米栄左衛門という人物について駆け足でその業績を紹介してきたが、これがすべてではなく、他にもいくつも実績を遺している。「はじめに」で平賀源内を引き合いに出し、勝るとも劣らないと評した意味がお分かりいただけたのではないかと思う。このような人物を続けて輩出した讃岐の地方力はどうと評価されてよいのではないだろうか。

最期に、久米の実績を支えた讃岐の技術力についても言及しておきたい。久米の考案した測量器具や新式銃砲の製造は地元の技術者たちによって行われた。最終的な組み上げや仕上げは久米自身が行ったとみられるが、部品の製造などには馬宿村周辺の職人たちが関わっている。いずれの製品も精密さが求められるものであり、高い技術力が要求される。それが讃岐の地で実現されていたというのは、香川という地を考える上で大きな意味をもつのではないだろうか。

※本稿は、多くの諸先学の成果をもとに執筆しました。逐次出典を記すべきところですが、紙幅と体裁の都合上叶いませんので、主たる参考文献を掲げることで代えさせていただきます。

林昭方「幻の地図を追って」『引田町歴史民俗資料館 年報・紀要 第6号』（同館編集、2001年）

澤田平『久米通賢の銃砲』（堺鉄砲研究会、2002年）

図録『久米栄左衛門—創造と開発の生涯—』（香川県歴史博物館、2002年）

中村士・御厨義道編集『久米栄左衛門通賢研究の新展開—久米通賢シンポジウムと新出史料—』（「江戸のモノづくり」総括班、2003年）

図録『平賀源内展』（東京都江戸東京博物館他編集、2003年）

久米通賢研究会編『もっと知りたい！久米通賢』（公益財団法人鎌田共済会発行、2010年）



御厨 義道 みくりや よしみち

1969年 福岡県生まれ

1997年 九州大学大学院満期退学、香川県教育委員会に入庁

1999年 香川県歴史博物館学芸員

2002年 香川県歴史博物館特別展『久米栄左衛門—創造と開発の生涯—』担当

2011年 香川県歴史博物館が香川県立ミュージアムに統合

現在、香川県立ミュージアム学芸課に所属

四国地方整備局からのお知らせ ～ 円滑な発注の確保に向けた対策等～

1 令和2年度予算概要

【予算概要】

国土交通省では、「被災地の復旧・復興」、「国民の安全・安心の確保」、「生産性と成長力の引き上げの加速」及び「豊かで暮らしやすい地域づくり」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図ることとしています。四国では主に、南海トラフ地震や頻発する自然災害等への対策、地域経済の好循環や生産性向上に資する「8の字ネットワーク」の推進や社会インフラの老朽化対策を推進します。

これらを推進するべく四国地方整備局の令和2年度予算は、「防災・減災、国土強靱化のための緊急対策」の配分額を含み直轄事業が1,731億円、補助事業が2,308億円、合計で4,039億円。直轄事業は対前年度比1.03、補助事業も対前年度比1.01となりました。国土交通省全体の事業費は対前年度比0.99となり、全国を上回る予算が配分されました。

また、四国地方整備局では、「令和2年度四国地方整備局総合評価落札方式等に係る実施方針」に基づく発注方式の各種試行を行っているほか、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた、工事や測量・調査・設計等の業務の円滑な発注及び施工体制の確保に向けた対策を実施しています。

建設コンサルタント業務における主な取り組みでは、令和2年6月1日以降の公告案件を対象に、建設系CPD協議会の各構成団体が発行するCPDの取得実績について、当該業務の公示日から過去2年以内又は公示日以降に発行されたものを加点点評価（単位取得の証明期間は1年）することにしたほか、プロポーザル方式および総合評価落札方式（標準型）の全ての業務を対象に、技術提案書の実施方針の簡素化を行っています。また、技術提案に係る評価テーマ数を原則1テーマ（着眼点は2つまで）としたほか、技術提案に係るヒアリングについては原則実施しないこととしています。引き続き、総合評価方式の適切な運用に向けた各種取り組みを推進するとともに、試行結果を踏まえ適時見直しを図ってまいります。

2 開催イベントの紹介

【四国地方整備局の広報の取組】

四国地方整備局の広報は、効果的に情報を発信するため、SNS（Facebook, Youtube, Twitter, Instagram）も積極的に活用しております。

四国地方整備局のホームページについて、令和2年度にリニューアルし、スマートフォンでの閲覧にも対応した作りとしております。

また、四国地方整備局の公式Youtubeチャンネルを開設しており、事業紹介、リクルートの動画を公開しております。ぜひ多数の方の動画閲覧、チャンネル登録をよろしくお願いいたします。

四国地方整備局公式Youtubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCdjSqh8DrpinwnWHIWqtu8A>

お問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局

企画部企画課 087-851-8061（代）

<http://www.skr.mlit.go.jp/>



四国地方整備局公式 Youtube チャンネル

徳島県からのお知らせ

徳島県 県土整備部

1 令和2年度予算（公共事業）概要

1) 予算概要

我が国が「人口減少・災害列島」という「二つの国難」に直面する中、公共事業をはじめとする社会資本整備は、「県土強靱化」や「地方創生」、ひいては「持続可能な社会」を実現する「未来投資」として、その重要性が増しております。

今年度の当初予算は、「新たな地方創生総合戦略」のスタートの年として、災害列島・人口減少対策を推進するべく、「令和元年度2月補正予算」と一体的に捉えた「国難打破！14か月・県土強靱化加速予算」として編成し、あらゆる自然災害から県民の命と暮らしを守る、再度災害防止対策や事前復興に関する事業など、切れ目のない施策を積極的に展開する予算を計上しています。

とりわけ、公共事業予算については、令和元年度「新たな総合経済対策」に係る国補正予算の積極的な獲得に努めるとともに、県単維持補修予算についても過去最大であった令和元年度当初予算を大きく上回る77億円を計上するなど、総額929億円を確保したところです。

今後とも、南海トラフ巨大地震をはじめ、台風による水害・土砂災害など大規模な自然災害を迎え撃つ「人が集い、安心して暮らすことができる魅力的な地域づくり」の強化に「県民目線・現場主義」でしっかりと取り組んで参ります。

2. 働き方改革に向けた取り組み

1) WEB会議の導入

令和元年度に貴協会四国支部徳島県部会にも参画いただいたワーキンググループにおいて、実施に向けた運用方法の検討や実証実験を重ねるとともに、試行業務での検証を踏まえ、本年4月に「Web会議実施要領」を策定し、本格運用を開始したところであり、今後、新型コロナウイルス感染症対策としても活用の推進を図って参ります。



2) 災害設計業務等に係る手持ち業務の履行期間延伸の取扱い

平成30年7月豪雨における対応の振り返りにおいて意見のあった、災害設計業務等の受注者の業務期間の確保・働き方改革に向けた取り組みとして、令和元年10月の入札・契約制度の改正において、県土整備部の発注業務を対象に、受注者の希望に応じて手持ち業務について履行期間の延伸を原則認める運用を定めたところです。さらに、本年5月の改正において、県発注のすべての業務に対象拡大を図っております。

働き方改革に向けた各種取組みもご活用いただきながら、県土強靱化を着実に進めていくための公共事業の円滑な執行へのご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先

徳島県 県土整備部 県土整備政策課

TEL 088-621-2521

FAX 088-621-2864

香川県からのお知らせ

香川県 土木部 技術企画課

1 令和2年度予算（土木部関係）概要

香川県は「新・せとうち田園都市創造計画」および「かがわ創生総合戦略」に沿って「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の三つの基本方針の下、人口減少・活力向上対策の総合的な推進、地域経済の活性化や本県の安心・安全社会の構築に向け、各種施策を展開しています。

令和2年度県当初予算（土木部関係）については、椋川ダム本体工事のピークが過ぎた影響から、対前年度比で92.0%の約444億円余となっていますが、この限られた予算を最大限に活かすため、ストック効果を重視しつつ、各事業を推進していくこととしています。

まず、「成長する香川」を目指し、県道高松坂出線（さぬき浜街道）の五色台トンネルを含む暫定2車線区間における交通量の増加への対応及び交流人口拡大のための4車線化事業の整備や高松空港へのアクセス向上による利便性の拡大を図る高松空港と高松自動車道を結ぶ県道円座香南線（地域高規格道路）の整備、重要港湾である高松港における国際物流ターミナルの整備等を進めています。

また、「信頼・安心の香川」を目指し、南海トラフ巨大地震や大規模な風水害に備え、海岸や河川で地震・津波対策を重点的・集中的に実施し、河川改修や砂防施設整備も推進しています。さらに、交通安全対策や社会資本の老朽化対策を実施するとともに、治水対策と安定した水資源の確保・供給のため、香東川水系において椋川ダムを整備しています。

加えて、一昨年 of 全国的な豪雨災害を受けて、本県においても「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を推進しています。

2 働き方改革に向けた取り組み

国全体で働き方改革が求められている中、特に我々建設産業においては、休日の確保など、将来の担い手を確保するための労働環境改善が喫緊の課題となっています。本県においても週休2日制モデル工事や余裕期間設定工事、ICTモデル工事の試行、さらに、ウィークリースタンスの導入など、働き方改革を積極的に進めています。

3 椋川ダムの建設

香東川水系椋川の上流において、「洪水調節」、「流水の正常な機能維持」、「新規水道用水の供給」及び「異常渇水時の緊急水補給」を目的に多目的ダムとして建設中の「椋川ダム」について、平成6年度に補助採択され、平成8年度から建設事業に移行し、用地買収や付替道路工事を進め、平成26年度にはダム本体工事の契約を行い、建設を進めてきましたが、本年7月末にはダム本体コンクリートの打設が完了し、今年度末の試験湛水開始、令和3年度のダム本体工事竣工に向けて進捗を図っています。



建設中の椋川ダム(令和2年6月)

お問い合わせ先

香川県土木部 技術企画課

TEL 087-832-3510

愛媛県からのお知らせ

愛媛県 土木部

1 令和2年度予算（土木部）の概要

愛媛県の令和2年度当初予算は、西日本豪雨災害からの創造的復興に全力で対応するとともに、大規模災害等に備えた防災・減災対策の強化、移住促進などの人口減少対策、実需の創出を追求する地域経済の活性化に重点的に取り組むこととしています。また、国の経済対策に係る補正予算に即応して防災・減災対策などに取り組む2月補正予算と合わせ切れ目のない対策を講じることとしています。

土木部予算では、西日本豪雨災害からの復旧事業の早期完成を図るとともに、関連する再度災害防止対策や南海トラフ地震等の大規模災害に備えた対策に早急に取り組むほか、全国と比べ遅れている社会資本整備の推進に加え、高度経済成長期に整備された社会インフラの老朽化対策、更には、深刻化する建設業界の担い手不足など、解決すべき多くの課題に対処することとしています。

この他、広域交通ネットワークのミッシングリンクの早期解消に向けた高速道路の整備促進や山鳥坂ダム、JR松山駅付近連続立体交差事業などの継続事業に加え、新たに西日本豪雨災害を踏まえた肱川激甚災害対策による堤防整備の前倒しなどにも取り組むこととしています。当初予算では、一般公共事業費386億円（対前年1.19）、また、県単独事業では重点施策の「防災減災」を中心に115億円（対前年0.99）を計上し、全体として762億円（対前年1.04）となっています。

2 日本初のナショナルサイクリングロード

愛媛県今治市から6つの島と西瀬戸自動車道の来島大橋などを經由して広島県尾道市に至る「しまなみ海道サイクリングロード」は、令和元年11月7日に国土交通大臣より、日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングロードとして、国内外にPRを図るため、第1次「ナショナルサイクリングロード」に指定されたところです。

「しまなみ海道サイクリングロード」は、瀬戸内海の島々が織りなす絶景を望む日本初の海峡を横断する自転車道として官民一体となってサイクリング環境向上に継続的に推進しており、更なるブランド力の向上を図って

いるところです。

多島美をはじめとする自然景観、島ごとに受け継がれてきた人々の営みや歴史・文化、穏やかな気候と豊かな自然に育まれたおいしい食べ物、そして何よりも島に暮らす人々の温かい心を感じることができるサイクリングロードとなっています。



3 新型コロナウイルスへの対処戦略

愛媛県では、引き続き「感染拡大回避行動」や「県外の外出自粛と3密回避」により、県民をあげて感染拡大の防止に取り組んでいるところです。今後とも協会の皆様の一層の御理解と御協力をお願いします。

お問い合わせ先

愛媛県土木部土木管理局
土木管理課技術企画室



高知県からのお知らせ

高知県 土木部

1 令和2年度予算（土木部関係）概要

令和2年度の土木部の予算は、5つの基本的な考え方のもとに予算編成を行いました。

- ①南海トラフ地震対策の推進
- ②土砂災害対策や河川における再度災害防止対策など、豪雨等災害対策の推進
- ③観光振興など地域経済の活性化のための事業の推進
- ④既存インフラの有効活用と長寿命化によるライフサイクルコストの低減
- ⑤事業のプライオリティの明確化と実効性のある事業の推進です。

こういった考え方を踏まえ、投資的経費では、本年度が最終年となる国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を最大限活用し、昨年度に引き続き、積極型の予算となる595億円を確保しました。

集中的に国土強靱化を図るとの国の方針を生かし、「3か年緊急対策」による追い風を大きな力にして、喫緊の課題である南海トラフ地震対策や豪雨への対策をより一層加速してまいります。

2 道路施設の点検・診断

平成26年7月の道路法施行規則により5年に一回の頻度で行うことが義務付けられた橋梁等の道路施設の点検については、平成30年度で1巡目が完了し、令和元年度から2巡目に着手しました。

今年度は、引き続き点検を実施するとともに、健全度評価Ⅲとなった橋梁等の補修設計及び補修工事を行うこととしていますので、引き続きご協力をお願いします。

3 洪水浸水想定区域図作成

平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風など、近年、豪雨災害が頻発化、激甚化しています。特に、河川の氾濫による多数の犠牲者が発生しており、破堤による広域な浸水リスクや、ダム下流での浸水リスクの周知が課題となっています。

人的被害軽減のためには住民の適切な避難が不可欠です。このため、水防法では基礎情報となる洪水浸水

想定区域図等の作成・公表が求められているところで

す。県内の河川では、昨年度、国分川と鏡川で洪水浸水想定区域図等を公表しました。今後も人口が集中する市街地を流れ、破堤によって大きな被害を受ける恐れのある河川等について、順次、洪水浸水想定区域図等を作成・公表していくこととしていますので、引き続きご協力をお願いします。

**お問い合わせ先**

橋梁・トンネル補修設計について

道路課チーフ（修繕担当）

宮中道太（TEL（088）823-9832）

洪水浸水想定区域図作成について

河川課チーフ（計画担当）

西田忠司（TEL（088）823-9838）

支部だより

総務部会

1.はじめに

総務部会は、支部役員会や諮問委員会の開催を始めとする支部組織運営や協会本部活動への参画等を支部事務局と連動して行う一方、傘下の「社会貢献活動委員会」、「災害対策委員会」、「四国（志国）若手の会」等の活動と合わせて、支部組織の充実と活動強化に努めています。

2.令和元年度の委員会活動報告

1) 社会貢献活動委員会

同委員会では、児童、学生、市民の方々を対象として、防災、環境保全、自然再生等に関する学びの場を創出・提供することにより、学校教育・生涯教育等を支援する活動を四国4県で展開しています。令和元年度は9月～11月の間に実施、4県全体で約550名に参加いただきましたが、合わせて、建設コンサルタントをアピールする場として捉え、役割紹介やアンケート調査を行って認知度向上とイメージアップに努めています。



アンケート協力、有難うございます!

徳島県部会では「とくしま防災フェスタ2019（徳島県主催）」に参加し、予め作成した防災情報やQRコードによる情報取得方法等を盛り込んだシートを、ブース来訪者325名に配布説明して防災意識の高揚を呼び掛ける等、防災に対する啓発活動を行いました。

高知県部会では「遊ぼう「アジロ山」自然体験」と題して親子連れ約100名を招き、自然とふれ合いながら自然環境の素晴らしさ、大切さを学ぶ体験学習会を開催しました。森の中では、植樹、環境関連クイズ、のこぎり体験、広場では、クラフト体験、歩測による距離当てゲーム、自作の楽器も取り入れた音楽祭等の催しを行いました。



最後にみんなで記念撮影。楽しかったね!

愛媛県部会では「重信川の自然をはぐくむ会（事務局：国交省松山河川国道事務所）」と協働して環境学習「松原泉で秋の虫を探

そう」を開催し、地元小学生と一緒に昆虫採集を行いました。公民館に戻って班毎に採集した昆虫の名前や見つけた場所等を整理・発表する等、保護者と共に自然環境の保全や再生の大切さを学ぶことができました。



虫取り奮闘中!おかあさんも捕まえてよ〜

香川県部会では、小学校の児童・先生94名を招き、三豊市内のごみ処理施設を見学する環境学習会を行いました。同施設は燃やせるごみを固形燃料の原料にリサイクルできることから資源の大切さを学びました。その後、学校に戻りドローンについて学習、模擬操縦や実際の飛行状況観察等を通して建設コンサルタントの仕事にも理解を深めてもらいました。



100m上空のドローンから記念撮影。

高いなあ〜

2) 災害対策委員会

毎年9月1日の「防災

の日」に合わせて、協会本部・支部合同で「災害時対応演習」を実施しており、令和元年度は9月2日、近畿地方でM8.0の大規模地震が発生したとの想定のもと、情報伝達訓練を中心に実施しました。

また、11月6日には「津波防災の日（11/5）」にちなんで四国地方整備局防災訓練に合わせて、災害協定に基づく南海トラフ地震発生時の自動参集訓練を中心とした支部独自防災訓練を実施し、課題抽出と今後の対応策について議論を交わしました。

※「(志国)若手の会」の活動については、次頁以降(p.18~19)をご覧ください。

3.おわりに

総務部会としては、他の部会とも連携し、時代環境に即応した施策を支部活動に反映・展開していくことで、建設コンサルタント業界をさらに魅力ある業界に発展・活性化させていく所存です。その結果、ステークホルダーの皆様方の期待に応えることができればと考えています。

読者の皆様方におかれましては、今後とも温かいご支援・ご協力を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

対外活動部会

1. 対外活動部会の3つの活動

1) 発注機関への要望・提案

(1) 四国ブロック意見交換会(8月27日)

協会と発注機関〔四国地整＋四国4県〕との意見交換会で、協会本部の最重要活動です。テーマは「担い手確保・育成のための環境整備、技術力による選定、品質の確保・向上」の3点で、中でも喫緊の課題である「働き方改革」「担い手確保・育成」「災害対応」等について活発な意見交換となりました。



(2) 合同技術交流会(12月4日)

四国地整との意見交換会で、支部活動の最重要活動です。全測連四地協と合同で行っており、就業環境改善、品質向上、報酬・積算、選定特定制度、業務評価、設計変更、災害対応など、多方面にわたり、より具体的な課題・改善策について意見交換を行っています。



(3) 四国4県各土木部との意見交換会(11月)

建コン業や協会の認知度・コミュニケーション向上

のために平成28年度から始めました。各県部会がそれぞれ、テーマ、運営を工夫して実施しており、話題は広範ですが、共通項は、人材不足・人材確保、南海トラフ巨大地震や豪雨などの防災・減災事業の継続、被災時の対応方針・対応能力、ウイクリースタンス、働き方改革、ICT化などでした。

2) 協会本部との連携

ブロック意見交換会の準備から実施、「要望提案」の内容検討、これに必要なアンケート調査や意見募集、分析、とりまとめを行うなど、本部との連携の窓口となっています。

本部支部意見交換会は、本部及び支部の幹部が一堂に会する唯一の会であり、次年度の要望・提案や白書だけの議論に留まらず、働き方改革や人材育成、災害対応に関する意見交換が活発に行われています。ただし、令和元年度(令和2年3月16日開催予定)は、コロナ禍の影響により意見交換会は中止となりましたが、引き続きWEB会議等によって検討、情報交換を行っています。

3) 地域コンサルタントに関すること

地域コンの健全な発展を図ることを目的に設置された地域コンサルタント委員会(年6回)に参加しています。「経営分析、入札契約制度、広域コンとの連携」の3テーマについて検討し、「建コン白書」や「要望提案」に盛り込まれています。

令和元年12月5日、高知市において「本部地域コンサルタント委員会高知大会」を開催し、本部委員11名と四国支部委員12名で「四国支部における地域コンサルタントの現状と課題」等を題材として、活発な意見交換を行いました。

2. おわりに

今年度、四国ブロック意見交換会(9/30)を皮切りに例年同様の活動予定ですが、コロナ禍により、会議形式はWEB会議等、適切な方法によって実施して参ります。四国支部から主体的に発信し、要望提案が少しでも叶うよう着実に進めて参る所存です。会員の皆様には、引き続き、叱咤激励、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

企画部会

企画部会 令和元年度報告

1. 企画部会の概要

企画部会では、会員名簿の編集、広報誌「JCCAしこく」の編集、ホームページの運営、リクルート活動などの他に、四国地方整備局新技術活用評価委員会へ委員として企画部会長が参加しています。

2. 広報活動

四国支部の広報活動の一環として、「JCCAしこく」Vol.03を令和元年8月に発刊しました。広報委員会のメンバー8人は、令和元年9月に次号の発刊に向けての意見交換と懇親会（於：高知市）を開催し、より広い読者の方々に向けた新たな掲載内容などを話し合いました。

また、新たに「会員投稿」のページを設け、広く会員の皆様のご投稿を掲載していく予定です。



広報委員会の様子

3. リクルート活動

12月～2月にかけて徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、高知工科大学の建設工学系学科の3年生、阿南高専、香川高専、高知高専の建設工学系学科の4年生を対象に、建設コンサルタンツ協会のリーフレット、ポスターを配布するとともに、「建設コンサルタンの役割と仕事」に関する説明、若手技術者の仕事の紹介などを行っています。

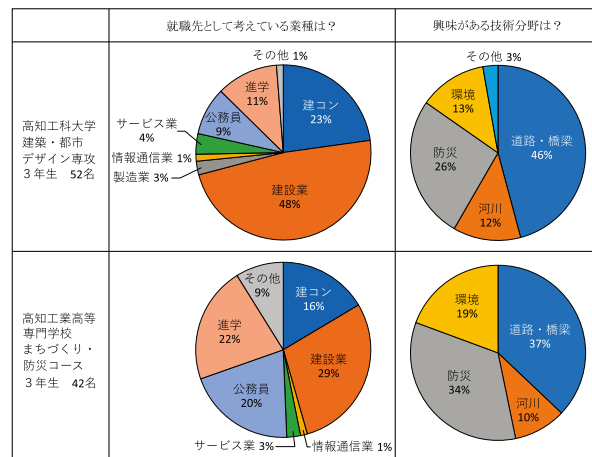


香川大学創造工学部安全システム建設工学科の3年生28名と協会支部若手の会による座談会（令和元年12月11日）



愛媛大学工学部環境建設工学科3年生および生産環境工学専攻環境建設工学コースの修士1年生の14名と協会支部若手の会による座談会（令和元年12月3日）

学生に対するアンケート調査結果（令和元年度）



4. あとがき

広報誌「JCCAしこく」が皆様に役立ち親しまれる内容とするため、会員の皆様からのご意見、ご提案そして寄稿をお待ちしています。

文責 右城猛

技術部会

1.はじめに

四国支部技術部会では、技術講習会・セミナー、現場見学会及び勉強会等を通して、協会の技術力向上及び成果品の品質確保に関する活動を行っています。

2.令和元年度の活動報告

1) 技術講習会・セミナー等

四国支部では、国土交通省四国地方整備局並びに(一社)日本橋梁建設協会四国事務所、(一社)プレストレストコンクリート建設業協会四国支部のご協力を得て、毎年四国四県にて、橋梁及び品質確保に関する技術講習会を開催し、総勢300名程度の参加を得ております。

また、橋梁架設の現場見学会では、高知の大桁橋の架設現場をバーチャル画像体験等も交えながら開催する事が出来ました。

また、当協会本部より講師をお招きして、経営・管理者層を対象としたマネジメントセミナーや技術部門の方を対象にした品質セミナー“エラー防止のために”も開催して多くの参加を得ております。



技術講習会

2) 設計成果・品質向上委員会等

建コン四国支部の技術の方に参加頂き「設計成果の品質向上に関する勉強会」を開催し、業務中の運用に関する問題点の改善や運用の統一を主たる目的として国土交通省四国地方整備局企画部技術管理課と勉強会を開催しており、業務の運用上の改善に努めています。



現場見学会

また、橋梁や道路に関して、前述の協会メンバーの中から、協会本部と共に国土技術政策総合研究所や土木研究所との意見交換等へも参加しています。協会四国支部HP(ホームページ)に道路橋相談窓口も開設しておりますので、活用してみてください。

今年度は、河川分野においてWG(ワーキンググループ)の様な形から展開して行くつもりです。



橋梁組立模型にチャレンジ

3.おわりに

エラー事例を募集した際にはご協力頂き有り難うございました。

資格・情報部会

1.はじめに

資格・情報部会では、資格取得のための支援活動と最新の技術情報を提供することを目的として以下のような活動を実施しています。

2.RCCM資格試験に関する取り組み

①RCCM 資格試験

令和元年度のRCCM 資格試験を実施しました。

実施日：令和元年11月10日（日）

実施会場：英明高等学校

	全国平均	高松会場
申込者数	8,358	502
受験者数	5,659	358
合格者数	2,371	136
受験率	67.7%	71.3%
合格率	41.9%	38.0%

②RCCM 資格登録更新講習会の開催

実施日：令和元年10月17日（木）

会場：JRホテルクレメント高松

参加者：207名

3.CPDの企画・実施に関する取り組み

令和元年度において、四国支部としてCPDに20件登録しました。

4.ICT普及に関する取り組み

①ICT 施工活用促進部会

主催：四国地方整備局

開催日：令和元年6月17日（月）

場所：高松サンポート合同庁舎

②香川県、徳島県、愛媛県が主催したICT活用工事支援協議会に参加

③CIM ハンズオン講習会

本部情報部会 ICT 委員会 CIM 専門委員会の協力のもと、CIM ハンズオン講習会を開催しました。

開催日：令和元年10月28日（月）～29日（火）

会場：高松センタービル

参加者：20名

内容：コンサルタント技術者がCIM 導入ガイドラインに沿ってCIM を実業務に適用するための第一歩の取り組みとして、実際のパソコンを操作しながら、導入ガイドラインに沿ったモデルの作成方法の修得（土工編、infr編）

④GIS講習会

GISの基礎を修得することを目的に開催しました。（初級編・中級編・実践編）

開催日：令和元年7月1日（月）～3日（水）

場所：高松センタービル

参加者：53名

⑤ICTセミナーの開催

開催日：令和元年11月18日（月）

場所：マリンパレスさぬき

参加者：64名

⑥ドローン操作訓練の実施

開催日：令和元年6月18日（火）～

令和元年11月19日（火）

4回開催

場所：まんのう公園ドラム広場

参加者：159名



志国若手の会

1.はじめに

若手の会は、「島国四国に働く技術者として、建コン業界の発展・活性化を目的として活動し、また、若手の会での交流を通じてリーダーとして活躍する人材となれるよう、切磋琢磨できる会とする」ことを活動目的とし、平成29年9月に発足しました。

通称「志国若手の会」として、四国内のみならず全国の若手技術者や、受発注者の枠を超えて意見交換などを行い、業界を活性化する実行策（アクションプラン）を策定し、自らが具体化する場として、現在12社から25名のメンバーが参加し、活動を行っています。

2.令和元年度の活動報告

1)「若手技術交流会 in 愛媛」の開催

平成31年4月18日、愛媛県松山市において四国内の若手技術者が集まり、「若手技術者交流会 in 愛媛」を開催しました。

昨年度策定した志国若手の会アクションプランについて、参加者で意見交換を行い、最後は各人の「プラン実現のために自分はなにをするか」といった「私～します」宣言を行いました。例えば、「タスク管理を徹底し、定時で帰ります」や、「社内若手の会を作り、若手の活性化と仕事のモチベーションをアップします」など、自分の環境、会社の環境に合ったプランを各人が宣言することで、確実な実践に向けての意識付けを行いました。



公募での参加者からも、「フランクな雰囲気で見意見交換ができ、いい刺激になった」との感想をいただき、好評に終わりました。

2) 夏休みイベント「橋梁点検車体験会」の開催

設立以来初めて、志国若手の会が主催となり、夏休みの子供向けイベントとして「橋梁点検車体験会」を開催しました。今回は、四国建設コンサルタント(株)の皆様のご協力により、参加者も多く、盛大に開催することができました。この場をお借りし、御礼申し上げます。



※水色のお揃いのポロシャツが若手の会メンバー

子供たちには、吉野川大橋の点検を橋梁点検車に乗って体験してもらうほか、橋についてのクイズや建コンの仕事紹介など、グループを作ってまわってもらい、興味を深めてもらいました。熱心にメモをとる子供もおり、説明する側としても充実感を味わいました。

また、午後は会場を移し、チームワークを育てるゲーム「マシュマロチャレンジ」に挑戦してもらいました。パスタのタワーのてっぺんにマシュマロを載せて、その高さを競うものですが、保護者の方も必死になり、大いに盛り上がりました。

このイベントで体験したことを夏休みの自由研究として学校で発表してもらうことで、多くの子どもたちや先生などにも、広く「建コン」という業界を知ってもらえたらと思います。



3) 四国地方整備局との若手交流会

平成30年度から、「発注者、受注者として立場の違いはあるが、若手として、同じ業界で働き、同じ問題、悩み（人材確保、職場環境改善、技術力向上等）を抱えていることから、意見交換により課題解決を図るなど、協同し、対外的にも魅力ある業界を目指す」ことを目的とし、四国地方整備局との若手交流会を行っています。これまでに、「問題の抽出」、「原因の分析」、「解決策の設定」ということで、計3回開催しました。

「仕事に追われて家族との時間が少ない」といった問題に対しては、「受発注者の交流により、お互いに、業務内容を理解し、また、技術力を向上し合おう」などの提案があり、今年度は、多く挙げられたこの提案を、一つでも実現に向かうよう、さらに具体を詰めて整理し、活動報告として発表する予定です。



3. おわりに

志国若手の会は、メンバーが増え、活動の場も拡大していますが、今年度はコロナウィルスの影響により、イベントも開催できるかわからない状況です。ですが、一気に広まった「オンライン」という場を活用し、新しいやり方を考え、若手から、活発に発信していきたいと思います。

皆様には、今後とも、ご支援・ご協力を賜りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

四国地方整備局長表彰

綾 貴穂 氏

平成30年度
四国管内道路交通分析等業務

復建調査設計株式会社
大阪支社技術部交通計画課長
趣味：阪神タイガースの応援



本業務は、H30.3の道路法等の一部を改正する法律により新たに導入された「重要物流道路」の指定に向けた検討及び四国地域の「新たな広域道路交通ビジョン及び計画」の策定を行ったものである。策定したビジョンは、従来の「広域道路ネットワーク」だけでなく、「交通・防災拠点」及び「ICT交通マネジメント」への取り組み方針についても、とりまとめを行った。業務を進める中で、関係機関が多く、各種調整が困難を極めたが、最終的に四国地域幹線道路協議会において合意が図られ、今後20年～30年の四国の道づくりの方針を示すことができたことは、四国出身の技術者として、うれしい限りである。

今年、マツダスタジアムがある広島から甲子園球場が近い大阪に異動となり新たな生活・応援活動がスタートしているが、今後も故郷の四国の発展に微力ながら尽くしていきたい。

平川 了治 氏

平成29年度 吉野川洪水時危機管理
対応検討業務

パシフィックコンサルタンツ株式会社
中部支社 中部国土基盤事業部 部長
趣味：映画・スポーツ鑑賞



本業務は、吉野川下流右岸において、沿川関係8機関21部署が参加する広域的な危機管理演習を実施し、大規模・広域避難に関する検討を行ったものである。演習では状況付与に基づく討論型図上演習を実施し、現行計画に従った洪水対応を検証するとともに、安全な避難の実現に向けた検討課題を抽出した。演習結果を踏まえ、各機関の検討課題について、対策の具体化と優先順位付けを整理し、取組宣言としてとりまとめることができた。

今回の業務を通じて、吉野川流域における大規模災害時の広域避難対策の方向性について関係機関で共通認識できたことが、大きな成果になった。しかし解決すべき課題は多く残されており、今後も、吉野川流域全体の災害対応力の強化に向け、微力ながら尽くしていきたい。

本業務において、関係機関の多くの方々から貴重な意見やアドバイスを頂きました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

佐藤 康弘 氏

平成29年度
那賀川水系河道計画検討業務

建設技術研究所
河川部グループリーダー
趣味：サッカー観戦、ランニング



本業務では、那賀川の河川整備計画変更に関する具体的な局所洗掘対策を盛り込むことを目的に、長年の課題であった大規模洗掘メカニズムの解明を検証した。

最初に、当時の河床形状データ、土質データ及び洪水履歴から洗掘メカニズムの仮説を整理した。次に、準三次元河床変動モデルを用いて、砂礫堆形状に規定された偏流や二次流の発生検証、洗掘状況の再現性の高い土質状況の分析、当時設置されていた水制工の効果分析を行い、仮説の妥当性を定量的に検証した。

今回の業務の知見を踏まえた局所洗掘対策が、学識経験者を含む技術検討会等での審議を経て承され、令和元年7月に公表された河川整備計画変更にも反映された。今後も、たゆまぬ技術開発の努力を続け、安全で潤いのある豊かな社会づくりに貢献したいと考えている。

佐藤 壘 氏

平成30年度
長安口ダム管理検討業務

(株)四電技術コンサルタント 徳島支店
課長代理
趣味：サッカー観戦



本業務は、那賀川の治水に係る課題解決の一環として検討を行ったものである。具体的には、長安口ダム改造事業後の操作規則、細則等の作成を行うとともに、地元住民等を対象とした説明資料を作成した。また、洪水が頻発する那賀川において、特別防災操作時の放流量設定方法の検討や、柔軟なダム操作の実施を補助するために既存の流水管理支援システムの改良などを行った。

今回、那賀川流域の特徴や長安口ダムの現状を十分に踏まえ、検討を行ったことが技術的に大きな成果となった。今後も地域のニーズを踏まえた検討などを行い、建設技術者として社会に貢献していきたい。

四国地方整備局長表彰

藤原 大氏

平成30年度
香川東部地域道路検討外業務
復建調査設計(株)
道路計画課課長補佐
趣味：サイクリング、旅行



この度は、四国地方整備局長より優秀建設技術者表彰ならびに香川河川国道事務所長より優良業務請負団体表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務施行にあたり、ご指導賜りました香川河川国道事務所の皆様には、厚く御礼申し上げます。

本業務は、地域高規格道路高松環状道路の必要性の整理及び整備効果の検証、道路概略検討を行い、計画段階評価資料作成を行ったものです。業務遂行にあたっては、分かりやすい説明資料作成及び適切な工程管理が求められ、弊社の計画部門と設計部門が連携し、迅速な対応に努めたことが高い評価を頂いた一因であると考えています。今回の受賞を励みに、一層の自己研鑽と技術の向上に努め、今後の社会資本整備に貢献していく所存です。

貸谷 康宏氏

平成30年度 土器川水辺現地調査
(陸上昆虫類等)業務
株式会社ウエスコ
課長補佐
趣味：



本業務は、河川水辺の国勢調査として、土器川における陸上昆虫類等の生息状況を調査したものです。本調査の確認種を整理し、過去の結果と比較することで、昆虫類等の生息からみた河川環境の現況を分析しました。そのうえで、土器川の特徴を踏まえ、河道掘削等における環境配慮上の留意事項について考察しました。

今回の業務では、希少種に限定せず、普通種を含めた昆虫相全体に基づいた精細な分析により評価を行ったことが、技術的な成果であったと考えます。また、河川環境情報図の更新やパンフレット作成など、河川管理や啓発への活用を意識した取り組みが評価いただいたものと考えております。今回の受賞を励みとし、今後も河川整備を始めとした社会資本整備における環境保全に貢献できるよう、さらなる技術研鑽に努めて参りたいと思います。

津崎 博美氏

平成30年度南吉田第1高架橋(下り線)
詳細設計業務
(株)オリエンタルコンサルタンツ
技師長
趣味：映画・音楽鑑賞



本業務は、国道56号松山外環状道路空港線に計画される、橋長142.0mのPC5径間連続ラーメン中空床版橋の詳細設計業務を行ったもので、隣接橋を含む橋梁予備設計で上下部工剛結のラーメン構造を採用し、大幅なLCC縮減を実現した。施工確認は、CIMモデルでランプ橋と本線との近接施工、隣接橋を含めた施工ステップ確認、鋼材・付属物等干渉チェック等フロントローディングで確認を行った。

今回の業務を通して、連続高架橋の計画では、設計コンセプトを立案し隣接橋を含む高架橋全体の最適化を検討することが重要と感じた。

今後の橋梁設計では、H29道示で性能設計を行うため、具体的にどのようなコンセプトで、どう設計するのかを問われる時代が来ている。

今後とも、土木設計の技術力を磨き社会資本整備の一助になれるよう、努力していきたい。

山崎 祐一氏

平成30年度
物部川・仁淀川外排水対策検討業務
日本工営(株) 四国支店
流域水管理部長
趣味：パン屋巡り



本業務は、南海トラフ巨大地震・津波発生後に想定される長期間の浸水を解消するための排水計画の考え方を検討するものである。

南海トラフ巨大地震発生後からの浸水解析、さらには排水作業の開始の目安となる発災から3日間の排水解析を行い、浸水及び排水の挙動を把握した。この結果を踏まえて、排水ポンプ車の配置計画や通行可能なルート、排水オペレーションの検討を行った

今回の業務を通して、南海トラフ巨大地震・津波がいつ発生しても対応できるよう事前準備としての排水計画を立案することができた。

今後も、複数ケースの被災シナリオや対応シナリオを踏まえた冗長性のある計画を立案できるよう技術研鑽していきたい。

四国地方整備局長表彰

藤田 啓輔 氏

平成29年度
仁井田川橋実施設計業務

(株)長大 高知事務所
高松構造技術部長

趣味：バスフィッシング



本業務は、「窪川佐賀道路(窪川工区)」の仁井田川を渡る橋梁の詳細設計を行ったもので、河川中央に橋脚を設置する当初の計画では治水安全性および河川環境、事業工程への影響など多くの問題が懸念されたため、河川条件を見直し、支間割や橋梁形式を再検討することからスタートしました。また、再検討にあたり耐久性・維持管理性に優れる構造を採用するとともに、架設計画では陸上部と渡河部を区分して架設工法を組み合わせる方法を提案するなど、ライフサイクルコストを縮減し、かつ当初計画の課題を解決する合理的な橋梁計画を実現できたことが、技術的に大きな成果となりました。

今回の業務では、発注者・受注者が一体となり、より良い計画を目指して躊躇なく見直しに踏み切れたことが何よりの成果です。改めて、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

本屋敷 正人 氏

平成29-30年度
南国安芸道路(1工区)構造物設計業務

大日本コンサルタント株式会社
主幹

趣味：海釣り



本業務は、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所より受注した業務である。内容は、高規格幹線道路である南国安芸道路1工区(西野地区)における一般構造物詳細設計(箱型函渠及び擁壁)の他、関連事業の局協議資料作成や同工区の工事対応、地元協議対応を行ったものである。

今回の業務を通して、耐震設計を行う大型函渠のせん断補強法、河川護岸に近接する補強土壁の支持力照査法について技術提案を行い、採用に至ったことが大きな成果となった。また事業中の工事課題を解決し、円滑な事業推進に貢献できたと考えます。

今後とも技術の研鑽に努め、最新の知見に基づく土木構造物の計画・設計を続けていきたい。最後に、このような高評価をくださった発注者の皆様に深謝の意を表す。

福田 和恵 氏

平成30年度 大渡ダム水辺現地調査
(陸上昆虫类等)業務

(株)四電技術コンサルタント 高知支店
課長

趣味：野鳥観察



本業務は、仁淀川水系大渡ダム貯水池及びその周辺において、河川水辺の国勢調査として陸上昆虫类等調査を行ったものである。平成6年度から継続されている調査で、今回で4回目となり、調査地区数が少ないものの、調査方法の追加や工夫を行い、生息する昆虫類の把握に努めた。

今回の業務を通して、重要な昆虫類の経年的な確認状況、EI指数・RI指数・多様度指数・類似度指数等を用いて環境との関わりを解析したことで、大渡ダム周辺の樹林や河川環境についてその特徴を昆虫類の生息の観点から捉えることがつな

がった。
今後も私たちが生きる世界で共存する生物とその生育・生息環境の状況、その変化を知り、環境と在り方を考えていきたい。



事務所長表彰

氏名	業務名	事務所名	会社名	役職
土崎 伸	平成30年度 徳島管内事故危険箇所対策検討業務	徳島河川国道事務所	(株)オリエンタルコンサルタンツ 徳島事務所	管理技術者
若田 誠司	平成30年度 徳島管内道路管理データ整備登録業務	徳島河川国道事務所	(株)エコー建設コンサルタント	管理技術者
辰野 恵	平成30年度 西井川箇所外測量業務	徳島河川国道事務所	ニタコンサルタント(株)	主任技術者
西原 洋子	平成30年度 徳島南環状道路事業認定関係資料作成業務	徳島河川国道事務所	(株)ウエストコンサルタント	主任担当者
植野 哲彦	平成30年度 徳島管内道路事業評価分析業務	徳島河川国道事務所	(株)福山コンサルタント 徳島事務所	管理技術者
井上 直人	平成30年度 徳島管内構造物外設計業務	徳島河川国道事務所	四国建設コンサルタント(株)	管理技術者
大村 史郎	平成29-30年度 四国横断自動車道構造物設計業務	徳島河川国道事務所	四国建設コンサルタント(株)	管理技術者
大村 史郎	平成29年度 32号防災対策設計業務	徳島河川国道事務所	四国建設コンサルタント(株)	管理技術者
宮田 和広	平成30年度 たかたび護岸測量設計業務	四国山地砂防事務所	(株)フジタ建設コンサルタント	管理技術者
江川 真史	平成30年度 四国中部地区航空レーザ計測業務	四国山地砂防事務所	国際航業(株) 徳島営業所	主任技術者
横尾 公博	平成30年度 四国山地土砂洪水氾濫影響評価手法検討業務	四国山地砂防事務所	八千代エンジニアリング(株) 四国統括事務所	管理技術者
渡邊 義則	平成30年度 香川管内改築事業修正設計業務	香川河川国道事務所	(株)四電技術コンサルタント	管理技術者
池田 利徳	平成30年度 高松管内附属物点検業務	香川河川国道事務所	国際航業(株) 高松支店	管理技術者
丸 晴弘	平成30年度 香川管内防災点検業務	香川河川国道事務所	日本工営(株) 四国支店	主任技術者
白井 秀明	平成30年度 屋島地区電線共同溝詳細設計業務	香川河川国道事務所	(株)四電技術コンサルタント	管理技術者
片山 雅弘	平成30年度 戸川視距改良設計業務	香川河川国道事務所	四国建設コンサルタント(株) 香川支店	管理技術者
山崎 祐一	平成29年度 重信川危機管理検討業務	松山河川国道事務所	日本工営(株) 四国支店	管理技術者
池田 一郎	平成30年度 33号防災設計業務	松山河川国道事務所	四国建設コンサルタント(株) 愛媛支店	管理技術者
福井 洋幸	平成29年度 重信川治水計画検討業務	松山河川国道事務所	(株)建設技術研究所 四国支社	管理技術者

事務所長表彰

氏名	業務名	事務所名	会社名	役職
竹葉 克浩	平成30年度 松山管内道路網整備計画検討外業務	松山河川国道事務所	復建調査設計(株)松山支店	管理技術者
西山 毅	平成30年度 新居浜バイパス外設計業務	松山河川国道事務所	(株)芙蓉コンサルタント	管理技術者
古田 英雄	平成30年度 立間地区用地調査等業務	大洲河川国道事務所	(株)エイト日本技術開発 四国支社	主任担当者
高柳 朝一	平成30年度 大洲管内トンネル点検(その2)業務	大洲河川国道事務所	応用地質(株) 四国事務所	管理技術者
宮田 昇平	平成30年度 肱川河道管理計画外検討業務	大洲河川国道事務所	(株)建設技術研究所 四国支社	管理技術者
河端 悟司	平成30年度 津島道路設(その1)業務	大洲河川国道事務所	(株)四電技術コンサルタント 松山支店	管理技術者
西田 眞史	平成29年度 大洲管内設計業務	大洲河川国道事務所	(株)芙蓉コンサルタント	管理技術者
大村 恵英	平成30年度 肱川地盤高測量業務	大洲河川国道事務所	国際航業(株) 松山営業所	主任技術者
新玉 和也	平成30年度 肱川堤防護岸設計外業務	大洲河川国道事務所	(株)四電技術コンサルタント 松山支店	管理技術者
稲田 博文	平成30年度 肱川流量観測業務	大洲河川国道事務所	(株)富士建設コンサルタント	主任技術者
矢野 芳邦	平成30年度 白浦地区用地調査等業務	大洲河川国道事務所	(株)富士建設コンサルタント	主任担当者
柴田 昭英	平成30年度 法花津地区用地調査等業務	大洲河川国道事務所	(株)第一コンサルタンツ 松山事務所	主任担当者
山崎 祐一	平成30年度 肱川防災計画検討外業務	大洲河川国道事務所	日本工営(株) 四国支店	管理技術者
三島 隆伸	平成30年度 肱川底生動物外環境調査業務	大洲河川国道事務所	(株)四電技術コンサルタント 松山支店	管理技術者
野田 和良	平成30年度 玉川箇所堤防予備設計業務	大洲河川国道事務所	(株)東京建設コンサルタント 四国支社	管理技術者
西森 幸弘	平成29-30年度 山鳥坂ダム工事用道路外測量設計業務	山鳥坂ダム工事事務所	四国建設コンサルタント(株) 愛媛支店	管理技術者
森井 裕	平成30年度 鹿野川ダム水質総合検討業務	山鳥坂ダム工事事務所	(株)建設技術研究所 四国支社	管理技術者
中道 誠	平成30年度 高知海岸保全技術検討業務	高知河川国道事務所	(株)建設技術研究所 四国支社	管理技術者
仲間 真紀	平成30年度 佐賀大方道路(入野地区外)地質調査業務	中村河川国道事務所	四国建設コンサルタント(株) 高知支店	主任技術者
犬山 昌夫	平成30年度 渡川水系排水作業準備計画検討業務	中村河川国道事務所	日本工営(株) 四国支店	管理技術者
村手 達佳	平成30年度 四万十川環境管理基図作成業務	中村河川国道事務所	いであ(株) 四国支店	管理技術者

事務所長表彰

氏名	業務名	事務所名	会社名	役職
井原 拓二	平成30年度 佐賀大方道路 地表地質概査外業務	中村河川国道事務所	応用地質(株) 高知支店	主任技術者
新居 睦夫	平成30年度 高知東部地区 事業効果検討業務	土佐国道事務所	(株)長大 高知事務所	管理技術者
木村 和夫	平成29年度 土佐管内阿南 安芸自動車道路線検討業務	土佐国道事務所	(株)オリエンタルコンサルタンツ 高知事務所	管理技術者
小林 努	平成30年度 吉良川大橋側道橋設計業務	土佐国道事務所	セントラルコンサルタント(株) 四国事務所	管理技術者
白井 秀明	平成30年度 土佐管内電線 共同溝詳細設計業務	土佐国道事務所	(株)四電技術コンサルタント 高知支店	管理技術者
小笹 俊成	平成30年度 国道33号路線 検討外業務	土佐国道事務所	(株)福山コンサルタント 高知営業所	管理技術者
宮川 健	平成30年度 横瀬川ダム巡視 支援システム検討業務	中筋川総合開発工事 事務所	日本工営(株) 四国支店	管理技術者
守谷 将史	平成30年度 早明浦ダム濁水 対策検討業務	吉野川ダム統合管理 事務所	(株)建設技術研究所 徳島事務所	管理技術者
白鳥 実	平成30年度 吉野川水系ダム 群利水運用検討業務	吉野川ダム統合管理 事務所	(株)四電技術コンサルタント 徳島支店	管理技術者
真鍋 泰徳	平成29-30年度 柳瀬ダム貯水 地周辺地質調査(その1)業務	吉野川ダム統合管理 事務所	(株)シアテック	主任技術者
菊池 智	平成30年度 野村ダム漏水対 策検討外業務	野村ダム管理所	日本工営(株) 四国支店	管理技術者
佐貫 方城	平成30年度 野村ダム水辺現 地調査(底生動物)業務	野村ダム管理所	(株)ウエスコ 愛媛事務所	管理技術者
辻倉 裕喜	平成30年度 大渡ダム分布型 洪水予測検討業務	大渡ダム管理所	(株)建設技術研究所 四国支社	管理技術者
古宮 一典	平成30年度 大渡ダム地すべ り対策工検討業務	大渡ダム管理所	応用地質(株) 高知支店	管理技術者
古宮 一典	平成30年度 大渡ダム斜面観 測業務	大渡ダム管理所	応用地質(株) 高知支店	主任技術者
矢野 晶人	平成30年度 大渡ダム定期検 査資料作成外業務	大渡ダム管理所	(株)建設技術研究所 四国 支社	管理技術者
片岡 寛志	平成30年度 大渡ダム法面補 修設計業務	大渡ダム管理所	(株)第一コンサルタンツ	管理技術者
庄司 誠	平成30年度 橋梁点検(土佐 管内)業務	四国技術事務所	(株)ウエスコ 四国支社	管理技術者
朝倉 光司	平成30年度 フライアッシュコ ングリートの利活用検討業務	四国技術事務所	(株)四電技術コンサルタント	管理技術者
井上 憲	平成30年度 高知港海岸実施 設計等業務	高知港湾・空港整備 事務所	いであ(株)	管理技術者
石河 雅典	平成30年度 高知港海岸断面 検討業務	高松港湾空港技術調 査事務所	パシフィックコンサルタンツ(株)	管理技術者

経理理念

オリエンタルコンサルタンツは、次の3つの満足を追求し、『真に魅力ある企業』を実現します

- 一. 全社員の物心両面の豊かさを追求する（社員満足）
- 一. お客様に最高の総合的・知的サービスを提供する（顧客満足）
- 一. 世界の人々の安全で豊かな暮らしの実現に貢献する（社会貢献）

経営姿勢

当社は、4つの考えを大切に経営します

- 1. 顧客や社会から信頼される企業になる
- 2. 個の成長→企業の成長→豊かさの実感の好循環を生み出し、情熱とやりがいを醸成する
- 3. 好循環を生むために、適切な利益を追求する
- 4. 役職員一人ひとりが主役となる全員経営の推進、経営基盤の強化を行う

2025年ビジョン

日本トップブランドの技術により、社会価値創造企業になる

～「全員経営」と「情熱とやりがい」により、社会価値を創造する担い手になる～

イノベーション イノベーション 「革新」
チェンジ チェンジ 「変革」
チャレンジ チャレンジ 「挑戦」

革新

事業の上流から下流までを実施する垂直統合と複数の事業の複合化による“総合事業”や、先進技術の導入に向けた“研究開発”の推進により、新たな社会価値を創造

変革

受動型ビジネスから“主導型ビジネス”に転換

挑戦

自らが投資し、事業者としてビジネスを行う“事業経営”

を推進するとともに、官と民が持てるリソースを最大限に有効活用する“官民連携”に積極的に取り組む

我が社における重点化事業

道路整備・保全事業 流域管理・保全事業 防災事業
交通運輸事業 地方創生事業 海外事業

CSR・CSV

「社会価値創造企業」として社会に貢献

私たちは、中期ビジョン（2025年）において「社会価値創造企業」を掲げ、魅力ある社会づくり、持続可能な社会づくりを進めています。これは、2015年9月に国連サミットにおいて2030年に向けた「持続可能な開発のための目標（Sustainable Development Goals :SDGs）」の活動に符合するものと捉えています。また、SDGsの取り組みは、企業としての社会的責任（CSR）であり、社会との共通価値創造（CSV）の取り組みでも考えられます。

このため、私たちは、「社会価値創造企業」として社会に貢献するために、SDGsに向けた活動を念頭に、次のようなCSR活動やCSV活動の取り組みを進めています。

社会的責任としてのCSR

私たちは、社会的責任を果たすために、CSR (Corporate Social Responsibility) を進めています。その活動の一環として、働き方改革・女性活躍などの取り組みや、社会の一員としてのボランティア活動に取り組んでいます。



価値ある時間の創出を考える社内講習の様子

シチズンシップ

私たちは、社会の一員として、地域の清掃活動などのボランティア活動や、子供たちへの総合学習の支援などの活動にも取り組んでいます。



東京都代々木公園の清掃活動を継続して、毎年4月に実施しています。グループ会社の社員や家族も総出で参加する恒例の活動です。

社長からのメッセージ

当社は昭和32年12月の創立以来、高度化、多様化する社会のニーズに対応するため、事業の多様化、組織の変革・拡大を図りながら知的サービスを提供してまいりました。そして、平成29年12月に創立60年という大きな節目を迎えることができました。これも、お客様である国民や発注者の皆様、株主、役職員やご家族の方々、諸先輩の方々等、多くの関係者からのご支援、ご指導、ご鞭撻によるものと深く感謝申し上げます。

60年間にわたり、私たちは社会インフラ整備に関わる企業として、「安全、安心、快適、活力」という価値を提供してまいりました。そして60周年の節目に、さらに魅力ある社会や持続可能な社会を創造する「社会価値創造企業」を目指すこととしました。

私たちは、「革新」と「変革」と「挑戦」をキーワードに、これからも国や地域とのより高い信頼関係を築き、「社会価値創造企業」を目指してまいります。

(代表取締役社長 野崎 秀則)

(文責：取締役常務役員四国支社長 崎本 繁治)



福岡県うきは市で地元小学生を対象とした総合学習「観光教育プログラム2018」を実施し、地元の魅力の再発見と郷土愛を育む支援をしています。



小学生に『インフラ整備の意義・コンサルタントの役割』について理解してもらうため、小学校を訪問して写真や模型を使った出前講座を実施しました。

所在地 本社：
東京都渋谷区本町3丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル6号館

四国支社：
香川県高松市寿町1丁目3番2号 高松第一生命ビル

TEL 03-6311-7851 087-821-4012(四国支社)

FAX 03-6311-8021 087-826-5251(四国支社)

URL <https://www.oriconsul.com/>

社員 技術系1,000名 事務系153名 合計1153名

設立 昭和32年12月24日

代表者 代表取締役社長 野崎 秀則
取締役常務役員四国支社長 崎本 繁治



新吉野川大橋
昭和54年度新吉野川大橋詳細設計(旧新日本技研実績)



新吉野川大橋
昭和54年度新吉野川大橋詳細設計(旧新日本技研実績)

当社の歴史

片平新日本技研は平成29年に片平エンジニアリングと新日本技研の合併により生まれた新しい会社です。

片平エンジニアリング創業者の片平信貴は、名神・東名高速道路の計画・設計を旧建設省・日本道路公団において中心となって行ってきた技術者です。片平は欧米スタイルの提案型コンサルタントを目指し同社を創立しました。同社は以来一人ひとりの技術者がその専門分野で本当の意味のコンサルタントであるよう技術の研鑽に努め、我が国の高速道路網形成に大きな貢献をして参りました。

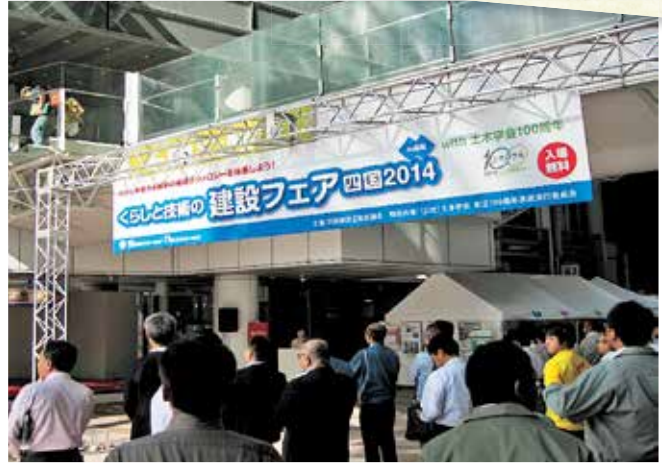
新日本技研創業者の佐々木道夫は、わが国の橋梁設計が本格的に展開する時期に発注者から高い信頼を得た橋

梁分野の真のコンサルタントでありました。佐々木も片平同様欧米型のコンサルタントを目指し、中立的な立場を厳守することと技術の陶冶に努めることを目標に掲げ同社を創立しました。同社は以来高度な専門技術に基づいた良質な技術サービスを提供し、「横浜ベイブリッジ」「かつしかハープ橋」を含め13橋で土木学会田中賞(作品部門)を受賞しております。

それぞれ半世紀の歴史の中で「道路の片平」、「橋梁の新日本」と呼ばれるまでに至っております。当社はそれぞれの会社の創業の精神を融和、継承してさらに発展して参ります。

「私たちは道と橋ですべてを繋いでゆきます」

をコーポレートメッセージとし交通インフラ総合コンサルタントとして道路、交通、橋梁分野のワンストップサー



応用地質つくばオフィス敷地の3次元物理探査データ

過去10年の主な業務実績

発注事務所	件名	工期
西日本高速道路㈱ 愛媛高速道路事務所	松山自動車道松山IC道路詳細設計	平成22年7月22日～平成23年3月18日
四国地方整備局 徳島河川国道事務所	平成25年度徳島管内橋梁耐震補強設計(その2)業務	平成25年6月28日～平成26年3月20日
四国地方整備局 四国技術事務所	平成25年度中の坪川橋設計検討業務	平成25年8月6日～平成26年3月25日
西日本高速道路㈱ 高松工事事務所	高松自動車道小海橋基本詳細設計	平成25年11月9日～平成26年10月4日
西日本高速道路㈱ 高松工事事務所	高松自動車道宗極橋基本詳細設計	平成25年11月16日～平成26年9月12日
四国地方整備局 徳島河川国道事務所	平成27年度新加賀須野橋外橋梁補修設計業務	平成27年12月16日～平成28年7月29日
西日本高速道路㈱ 徳島工事事務所	四国横断自動車道徳島JCT～徳島東IC間標識基本設計	平成28年9月13日～平成30年1月25日
西日本高速道路㈱ 四国支社	平成29年度四国支社管内整備効果資料作成業務	平成29年4月25日～平成30年2月18日

ビスはもとより、まちづくり、防災、環境保全、海外事業など関連する周辺領域に事業を展開します。

四国管内のこれまでのあゆみ

当社の四国事務所は技術職員1名、事務職員1名の小所帯であります。皆、大阪支店との兼務で四国管内をカバーしています。

過去には記録の有る限りで、旧片平エンジニアリングが昭和48年に「四国横断自動車道豊浜インターチェンジ伊予三島インターチェンジ予備設計」、旧新日本技研が昭和45年に「新吉野川大橋詳細設計」を皮切りに、現在の四国の道路の根幹となる大型インフラプロジェクトに携わってまいりました。

近年では、旧片平エンジニアリングでは高知自動車道の開通30年の整備効果や、旧新日本技研では国道11号のかちどき橋の耐震補強設計等に関わりました。

また、平成26年には、旧新日本技研においてサポート高松で開催された「くらしと技術の建設フェア四国」に参加し、四国管内の発注者様や同業他社様に当社を

知って頂くことが出来ました。

当社は令和2年に創業50周年を迎え、よりよい社会の実現を目指し、社会に貢献する「交通インフラ総合コンサルタント」として新たな道を歩み始めます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(文責：四国事務所 所長代理 桑田 直樹)

所在地 本社：
〒112-0002 東京都文京区小石川2-22-2
四国事務所：
〒770-0816 徳島県徳島市助任本町1-2-3

TEL 03-5802-1616 086-611-1261 (四国事務所)

FAX 03-5802-0046 088-611-1261 (四国事務所)

URL <http://www.katahra.co.jp/>

社員 218名 技術職員185名

設立 昭和45年9月1日

支店 東北・名古屋・大阪・広島・福岡

代表者 代表取締役社長 保崎 康夫



豊かな四国の自然を次の世代へ

エスシー企画株式会社



集合写真



会社のあゆみ

当社は、土木設計やプログラムの開発を目的として、昭和61年10月に設立されました。その後、平成2年に測量業、平成8年に建設コンサルタント業登録を経て、道路、橋梁の計画・設計を通して、地域社会への貢献を行いつつ、一級建築士事務所、地質調査業を登録し総合コ



国道192号徳島駅前 バリアフリー

ンサルタントとして、公共事業を担える会社として事業を進めて参りました。

社員数は30名程度であり徳島県に本社をおく地域に密着した企業ですが、技術者は専門分野はもとより、他部門の業務にも関心を持ったオールマイティーな技術者として挑戦しております。また、顧客満足度を第1主義とし、顧客ニーズと期待に応えることをモットーに、徳島県そして四国内を活動の場として社会情勢のニーズに応えるべく、常に新しい技術に関心を持ち、地域発展のために技術研鑽に努めております。

社会貢献活動

国土交通省が直轄管理している国道を対象とする道路の美化・清掃活動である「ボランティア・サポート・プログラム徳島」に参加しております。会社周辺の国道192号沿いのゴミ拾い等の清掃活動を、年に2回、社員全員で行い、道路をきれいにすることによって地元地域への愛着心を深めています。

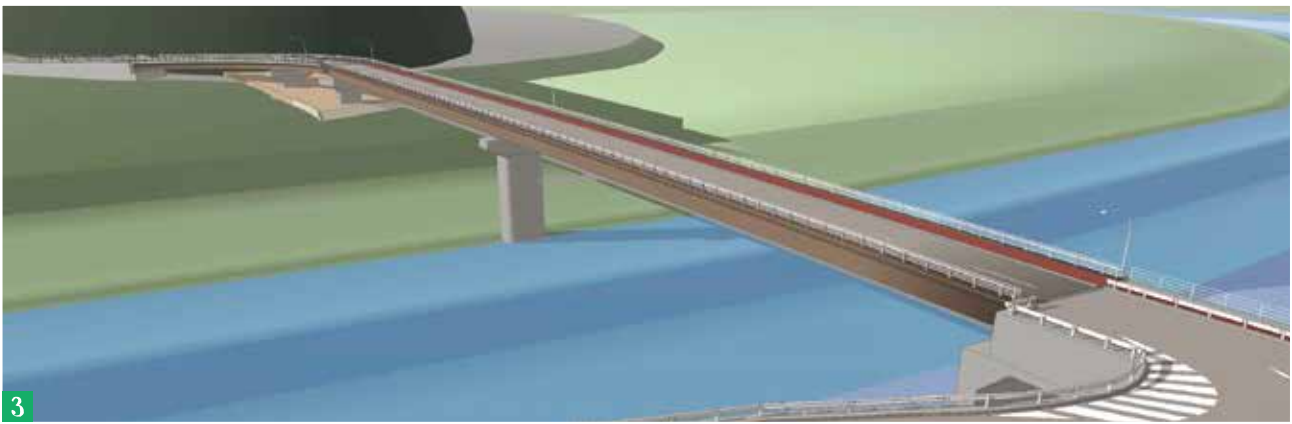
会員紹介



1



2



3

1 広域農道阿南丹生谷線 新築橋(施工中) 2 国道196号 今治道路 ボックスカルバート
3 広域農道阿南丹生谷線 新築橋(CIM モデルを活用した景観検討)

また、徳島大学工学部社会基盤デザインコース等に寄付をさせて頂き、教育・研究活動の費用として活用させて頂いております。

これらの活動を通じて、地元コンサルタントとして、社会貢献活動に取り組んでいます。

おわりに

当社では2021（令和3）年に創立35周年の節目を迎



美化・清掃活動

えます。また、当協会には、平成31年1月に加入し2年目を迎えた状況にあり、決意を新たにしているところであります。

今まで以上に、社員・会社の成長、豊かさの実現による好循環を生み出すとともに、顧客や社会から信頼される企業を目指していきたいと考えております。引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（文責：代表取締役 藤本 一郎）

所在地 〒770-0026

徳島県徳島市佐古六番町10 番8号

TEL 088-654-6690

FAX 088-654-6681

URL <http://www.sc-kikaku.co.jp>

従業員 29名(令和2年4月1日現在)

設立 昭和61年10月1日

代表者 代表取締役 藤本 一郎



—確かな技術で地域社会に貢献—

構宮技術コンサルタント 株式会社



1 社屋全景 2 砂防堰堤のドローンによる空撮 3 3D-CADによる砂防堰堤図 4 ドローン測量

会社概要

当社は、1986年（昭和61年）11月の設立以来、測量・設計・調査業務を通じて、地域社会に貢献することを目的に高知県を主に建設コンサルタント事業を行って参りました。

近年、ゲリラ豪雨による土砂災害や河川氾濫などが頻発しているとともに、南海トラフ地震の発生確率も高まってきております。このような状況の中で、地域住民の自然災害に対する防災意識も高まってきており、防災・減災のための災害リスクへの対応が求められています。

当社は、総合建設コンサルタントとして様々な社会資本整備に携わり、多くの実績を積み重ねてまいりました。今後も地域に根ざした企業として、技術力・成果品にこだわり、顧客の皆さん、地域の皆さんに喜んでいただき、信頼され頼られる建設コンサルタントをモットーに地域の発展に貢献してまいりたいと考えています。

取り組み

近年、業界を取り巻く技術の進展はめざましく、当社も多様化する顧客のニーズに対応するため、ICT技

術を活用し、ドローン測量やGPS測量、3Dスキャナー測量などを行っています。更に設計においては、BIM/CIMや3D-CADによる三次元設計などに取り組んでいます。

また、高知県は南海トラフ地震が発生した場合、甚大な被害を受けることが想定されています。地震や津波から、社員や家族、地域の安全を守り、早期に事業を再開するため、備えをしておく必要があります。当社では、事業継続計画（BCP）を策定し、避難訓練の実施、敷地内の井戸の設置、災害用の備蓄品の確保等に取り組み、高知県から「南海トラフ地震対策優良取組事業所」の認定を受けました。災害発生時には、地域の安全を守り、早期の復旧復興に努めたいと思います。

社会貢献活動

当協会の四国支部高知県部会主催の「地域貢献活動（アジロ山自然体験）」に参加し、地域住民や子供たちに自然の素晴らしさ体験してもらう取り組みを行ったり、地域の小学校にて、「測量・地図学習会」を行い、子供たちに測量体験をしてもらい、理解を深めてもらう取り組みをおこなっています。

会員紹介



5



7



11



6



9



12



8



10



14



13

5 3Dスキャナーによるボックスカルパー 6 3Dスキャナーでの観測状況 7 高知県シェイクアウト訓練への参加 8 南海トラフ地震対策優良事業所認定証 9 測量・地図学習会 10 アジロ山自然体験(四国支部高知部会主催) 11 88グリーンウォーク四国 12 社員旅行(鎌倉) 13 野球部 14 バスケットボール同好会

他には、毎年8月8日には、「88グリーンウォーク四国」に参加し、地域の美化活動に取り組んでいます。

て取り組んでいます。

(文責：代表取締役社長 吉田 幸男)

福利厚生

「社会貢献すると同時に、全社員の物心両面の幸福を目指す」を掲げており、福利厚生の充実も会社の大事な仕事のひとつと捉えて取り組んでおります。社内設備の充実以外にも、社内旅行やバーベキューなど多彩なイベントの開催や野球、バスケットボールといったクラブ活動に力を入れており、仕事と遊びを両立し、全社員が気持ちよく仕事が行える職場環境を目指し、全社員一丸となっ

所在地 〒780-0945

高知県高知市本宮町105-23

TEL 088-850-0550

FAX 088-850-0551

URL <http://www.koueicon.co.jp>

社員 46名(令和2年5月1日現在)

設立 昭和61年11月

代表者 代表取締役社長 吉田 幸男

役員名簿

令和2年度

四国支部役員

支部長 末澤 等 (株)四電技術コンサルタント

副支部長 天羽 誠二 四国建設コンサルタント(株)

副支部長 大野 二郎 (株)芙蓉コンサルタント

副支部長 右城 猛 (株)第一コンサルタンツ

副支部長 山崎 秀幸 (株)四電技術コンサルタント

支部理事 坂東 武 四国建設コンサルタント(株)

支部理事 齋藤 恒範 (株)エコー建設コンサルタント

支部理事 水上 博史 (株)和コンサルタント

支部理事 武内 和俊 (株)五星

支部理事 中山 誠 復建調査設計(株)

支部理事 森 健 (株)四電技術コンサルタント

支部理事 公文 高志 (株)サン土木コンサルタント

支部理事 吉田 幸男 構営技術コンサルタント(株)

支部監事 岡 兵典 (株)富士建設コンサルタント

支部監事 鈴木 誠 (株)エイ日本技術開発

1 総務部会

部会長	森 健	(株)四電技術コンサルタント
副部会長	齋藤 恒範	(株)エコー建設コンサルタント
副部会長	大場勝一郎	日本工営(株)
副部会長	吉田 幸男	構営技術コンサルタント(株)
委員	竹内 隆	アジア航測(株)
委員	川崎 末和	(株)ウエスコ
委員	藤本 一郎	エスシー企画(株)
委員	直本 啓祐	川崎地質(株)
委員	小畑 英樹	(株)地圏総合コンサルタント
委員	白川 幸男	(株)福山コンサルタント
委員	高野 浩二	八千代エンジニアリング(株)
委員	岡村 環	(株)四電技術コンサルタント

社会貢献活動委員会

委員長	森 健	(株)四電技術コンサルタント
委員	竹内 克宜	復建調査設計(株)
委員	織田 雅文	(株)五星
委員	篠丸 弘行	(株)五星
委員	末広 勝	(株)エコー建設コンサルタント
委員	菊池 昭宏	(株)和コンサルタント
委員	青木 正典	(株)第一コンサルタンツ
委員	杉本 正人	(株)サン土木コンサルタント
委員	森野 清満	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	森井 一正	(株)エイト日本技術開発
委員	星田 知一	(株)シアテック
委員	竹島 和司	(株)四電技術コンサルタント
委員	栗原 弘和	(株)四電技術コンサルタント
委員	高橋 幸宏	(株)四電技術コンサルタント
委員	横井 弘尚	(株)四電技術コンサルタント

災害対策委員会

委員長	岡村 環	(株)四電技術コンサルタント
副委員長	伊藤 友喜	四国建設コンサルタント(株)
委員	齋藤 恒範	(株)エコー建設コンサルタント
委員	大場勝一郎	日本工営(株)
委員	白川 幸男	(株)福山コンサルタント
委員	阿部 宏一	四国建設コンサルタント(株)
委員	松本 洋一	(株)第一コンサルタンツ
委員	森田 威孝	日本工営(株)
委員	須賀 幸一	(株)芙蓉コンサルタント
委員	乃村 泰司	(株)四電技術コンサルタント
委員	竹島 和司	(株)四電技術コンサルタント

若手の会

リーダー	西山 毅	(株)芙蓉コンサルタント
	笹岡 信孝	四国建設コンサルタント(株)
	岩永 健志	四国建設コンサルタント(株)
	重永 雄大	四国建設コンサルタント(株)
	中藤 亮太	(株)芙蓉コンサルタント
	齋藤 啓太	(株)第一コンサルタンツ
	兵頭 学	(株)第一コンサルタンツ
	佐藤 壘	(株)四電技術コンサルタント
	山口 亮太	(株)エコー建設コンサルタント
	荻野 泰彦	(株)エコー建設コンサルタント
	木村 和宏	(株)エス・ビー・シー
	松井 一貴	(株)エス・ビー・シー
	河津 孝典	(株)五星
	松下 雄一	(株)五星
	小笠 直孝	ニタコンサルタント(株)
	藤田 真人	ニタコンサルタント(株)
	酒井 孟	(株)フジタ建設コンサルタント
	山川 和輝	(株)フジタ建設コンサルタント
	島田 菜穂	日本工営(株)
	佐藤 琢	日本工営(株)
	山口 貴大	大日本コンサルタント(株)
	山本 都由	(株)四電技術コンサルタント
	上杉 佑子	(株)四電技術コンサルタント
	中村希久帆	(株)富士建設コンサルタント
	芝 泰雅	(株)富士建設コンサルタント

2 対外活動部会

部会長	天羽 誠二	四国建設コンサルタント(株)
副部会長	豊崎 裕司	四国建設コンサルタント(株)
副部会長	栗原 弘和	(株)四電技術コンサルタント
副部会長	須賀 幸一	(株)芙蓉コンサルタント
副部会長	青木 正典	(株)第一コンサルタンツ
委員	笠原 陸士	(株)エイト日本技術開発
委員	秋月 憲夫	(株)建設技術研究所
委員	吉田 幸男	構営技術コンサルタント(株)
委員	今中 雅樹	(株)五星
委員	大場勝一郎	日本工営(株)
委員	谷本 和幸	(株)富士建設コンサルタント
委員	藤田 達也	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	小西 親	復建調査設計(株)

対外活動委員会

委員長	天羽 誠二	四国建設コンサルタント(株)
委員	小笠 渉	四国建設コンサルタント(株)
委員	井内 浩明	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	安藝 哲也	(株)五星
委員	杉原 智巳	(株)四電技術コンサルタント
委員	谷本 和幸	(株)富士建設コンサルタント
委員	泉田 克典	(株)芙蓉コンサルタント
委員	青木 正典	(株)第一コンサルタンツ
委員	小野 裕正	(株)第一コンサルタンツ
委員	水野 隆之	構営技術コンサルタント(株)
委員	岩崎 信正	復建調査設計(株)
委員	鈴木 誠	(株)エイト日本技術開発

3 企画部会

部会長	右城 猛	(株)第一コンサルタンツ
副部会長	奈加 博之	ニタコンサルタント(株)
副部会長	崎本 繁治	(株)オリエンタルコンサルタンツ
副部会長	岡 兵典	(株)富士建設コンサルタント
副部会長	河野 一郎	セントラルコンサルタント(株)
委員	横山 嘉夫	いであ(株)
委員	神野 邦彦	(株)愛媛建設コンサルタント
委員	松井 隆	(株)片平新日本技研
委員	樋口 昭雄	基礎地盤コンサルタンツ(株)
委員	宮本 卓也	国土防災技術(株)
委員	永野 敬典	(株)相愛
委員	石本 修	中央復建コンサルタンツ(株)
委員	大塚 真弘	(株)長大
委員	久保田 明	(株)都市開発コンサルタント

広報委員会

委員長	右城 猛	(株)第一コンサルタンツ
副委員長	岡 兵典	(株)富士建設コンサルタント
副委員長	河野 一郎	セントラルコンサルタント(株)
委員	小川 修	四国建設コンサルタント(株)
委員	田村 猛	ニタコンサルタント(株)
委員	藤本 憲洋	(株)富士建設コンサルタント
委員	山下 敬吾	(株)五星
委員	三枝 茂樹	事務局

4 技術部会

部会長	大野 二郎	(株)芙蓉コンサルタント
副部会長	水上 博史	(株)和コンサルタント
副部会長	武内 和俊	(株)五星
副部会長	鈴木 誠	(株)エイト日本技術開発
副部会長	公文 高志	(株)サン土木コンサルタント
委員	中木 一文	(株)基礎建設コンサルタント
委員	倉田 房雄	(株)シアテック
委員	廣瀬 尚二	大日本コンサルタント(株)
委員	岸本 弘樹	(株)ダイヤコンサルタント
委員	五藤 隆彦	(株)東京建設コンサルタント
委員	菅 敏彦	南海測量設計(株)
委員	大野 晃司	パシフィックコンサルタンツ(株)
委員	元山 行人	(株)パスコ

設計成果品質向上委員会

委員長	大野 二郎	(株)芙蓉コンサルタント
委員	佐伯 信哉	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	高橋 光紀	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	浦嶋 義文	(株)エイト日本技術開発
委員	富原 浩	(株)エイト日本技術開発
委員	豊崎 裕司	四国建設コンサルタント(株)
委員	小川 修	四国建設コンサルタント(株)
委員	阿部 宏一	四国建設コンサルタント(株)
委員	西川 徹	(株)第一コンサルタンツ
委員	濱田 拓也	(株)第一コンサルタンツ
委員	井内 浩明	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	山本 晃臣	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	松本 豊久	復建調査設計(株)
委員	七宮 司	(株)四電技術コンサルタント
委員	福井 哲也	(株)四電技術コンサルタント
委員	鎌田 誠司	(株)四電技術コンサルタント
委員	泉田 克典	(株)芙蓉コンサルタント

5 資格・情報部会

部会長	中山 誠	復建調査設計(株)
副部会長	平尾 芳典	(株)松本コンサルタント
副部会長	藤田 和博	国際航業(株)
副部会長	小林 誠二	応用地質(株)
副部会長	矢野 史明	(株)ワタリコンサルタント
委員	白石 央	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	祖母井正博	(株)ウエストコンサルタント
委員	前田 博志	(株)エス・ビー・シー
委員	岡崎 健二	(株)建設環境研究所
委員	武智 秀樹	親和技術コンサルタント(株)
委員	岡林 均	(株)千代田コンサルタント
委員	秋吉 一美	(株)ティーネットジャパン
委員	佐藤 至紀	(株)ニュージェック

ICT 専門委員会

委員長	後藤 良夫	(株)四電技術コンサルタント
委員	妹尾 正也	四国建設コンサルタント(株)
委員	岡 義博	復建調査設計(株)
委員	小倉 和壽	(株)芙蓉コンサルタント
委員	酒井 寿彦	(株)第一コンサルタンツ

四国支部会員名簿

令和2年7月1日現在

55社(五十音順)

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
アジア航測(株) 四国支店	支店長 竹内隆	〒760-0023 高松市寿町1-4-3(高松中央通りビル)	087-823-5555 087-823-5560
(株)荒谷建設コンサルタント 四国支社	執行役員四国支社長 白石央	〒790-0045 松山市余戸中2-1-2	089-973-2311 089-972-0026
いであ(株) 四国支店	支店長 川田大理	〒780-0053 高知市駅前町2-16(太陽生命高知ビル)	088-820-7701 088-820-7702
(株)ウエスコ 四国支社	四国地区統括 川崎末和	〒761-8055 高松市紙町494	087-867-9123 087-868-3266
(株)ウエストコンサルタント	代表取締役 祖母井正博	〒790-0047 松山市余戸南1-20-33	089-974-3535 089-974-2228
(株)エイト日本技術開発 四国支社	執行役員四国支社長 鈴木誠	〒790-0054 松山市空港通2-9-29	089-971-6511 089-973-3132
(株)エコー建設コンサルタント	代表取締役 齋藤恒範	〒770-0865 徳島市南末広町4-53	088-625-6066 088-625-6099
エスシー企画(株)	代表取締役社長 藤本一郎	〒770-0026 徳島市佐古六番町10番8号	088-654-6690 088-654-6681
(株)エス・ビー・シー	代表取締役 木村充宏	〒779-3742 徳島県美馬市脇町字西赤谷1063-1	0883-52-1621 0883-52-1685
(株)愛媛建設コンサルタント	代表取締役 神野邦彦	〒790-0036 松山市小栗7-11-18	089-947-1011 089-941-8606
応用地質(株) 四国事務所	参与 四国事務所長 小林誠二	〒791-8013 松山市山越4-4-33	089-925-9516 089-925-9582
(株)オリエンタルコンサルタンツ 四国支社	取締役常務役員四国支社長 崎本繁治	〒760-0023 高松市寿町1-3-2(高松第一生命ビル6F)	087-821-4012 087-826-5251
(株)片平新日本技研 四国事務所	所長 松井隆	〒770-0816 徳島市助任本町1-2-3	088-611-1261 088-611-1262
(株)和コンサルタント	代表取締役 水上博史	〒770-0002 徳島市春日1-6-9	088-632-4330 088-632-4334

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
川崎地質(株) 四国支店	支店長 直本啓祐	〒791-8026 松山市山西町801-4	089-951-1630 089-953-1577
(株)基礎建設コンサルタント	代表取締役 中木一文	〒779-3120 徳島市国府町南岩延883-9	088-642-5330 088-642-4216
基礎地盤コンサルタンツ(株) 四国支店	支店長 樋口昭雄	〒791-8015 松山市中央1-11-20	089-927-5808 089-927-5812
(株)建設環境研究所 高松支店	支店長 岡崎健二	〒760-0068 高松市松島町1-13-10(カントビル5F)	087-835-6908 087-835-6909
(株)建設技術研究所 四国支社	支社長 秋月憲夫	〒760-0027 高松市紺屋町1-3(香川紺屋町ビル4F)	087-823-5531 087-823-5532
構営技術コンサルタント(株)	代表取締役社長 吉田幸男	〒780-0945 高知市本宮町105-23	088-850-0550 088-850-0551
国際航業(株) 西日本支社高松支店	支店長 村上幸一	〒760-0078 高松市今里町2-19-7	087-834-7575 087-837-3805
国土防災技術(株) 四国支店	支店長 宮本卓也	〒771-0144 徳島市川内町榎瀬676-1	088-666-3232 088-666-3233
(株)五星	代表取締役社長 武内和俊	〒767-0011 三豊市高瀬町下勝間670-1	0875-72-4181 0875-72-3633
(株)サン土木コンサルタント	代表取締役社長 公文高志	〒780-0066 高知市比島町4-6-33	088-824-1462 088-824-1461
(株)シアテック	代表取締役社長 倉田房雄	〒792-0003 新居浜市新田町3-1-39(惣開ビル)	0897-32-3937 0897-32-5979
四国建設コンサルタント(株)	代表取締役社長 天羽誠二	〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地3-1	088-683-3322 088-683-3323
(株)翔調査設計事務所	代表取締役 井上光利	〒790-0931 松山市西石井六丁目8番19号	089-956-3618 089-958-3465
(株)親和技術コンサルタント	代表取締役 武智秀樹	〒791-1101 松山市久米窪田町870-5	089-975-4851 089-975-4847

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
セントラルコンサルタント(株) 四国事務所	所長 芳澤龍哉	〒780-0056 高知市北本町1-3-1(鹿島高知営業所ビル)	088-826-7383 088-826-7384
(株)相愛	代表取締役 永野敬典	〒780-0002 高知市重倉266-2	088-846-6700 088-846-6711
(株)第一コンサルタンツ	代表取締役社長 右城猛	〒781-5105 高知市介良甲828番地1	088-821-7770 088-821-7771
大日本コンサルタント(株) 四国支店	支店長 廣瀬尚二	〒760-0026 高松市磨屋町3-1(合田不動産磨屋町ビル2F)	087-851-9292 087-851-9291
(株)ダイヤコンサルタント 四国支店	支店長 岸本弘樹	〒790-0952 松山市天山一丁目12-10	089-941-4855 089-932-1928
(株)地圏総合コンサルタント 四国支店	支店長 小畑英樹	〒792-0001 新居浜市惣開町1-6	0897-33-3123 0897-37-1603
中央復建コンサルタンツ(株) 四国営業所	所長 石本修	〒760-0023 高松市寿町1-2-5(井門高松ビル)	087-825-5701 087-825-5702
(株)長大 高松支社	支社長 大塚真弘	〒761-0303 高松市六条町799-5	087-864-8715 087-864-8755
(株)千代田コンサルタント 高知営業所	所長 照屋尚志	〒780-8040 高知市神田2236-17	088-802-6716 088-802-6717
(株)ティーネットジャパン	代表取締役社長 中尾隆治	〒761-8081 高松市成合町930-10	087-886-8118 087-886-8137
(株)東京建設コンサルタント 四国支社	支社長 五藤隆彦	〒760-0023 高松市寿町1-3-2(高松第一生命ビルディング)	087-821-2888 087-811-0010
都市開発コンサルタント(株)	代表取締役 久保田明	〒780-8061 高知市朝倉甲239番地11	088-840-9295 088-840-7713
南海測量設計(株)	代表取締役 藤村修作	〒790-0964 松山市中村3丁目1-7	089-931-1212 089-931-7900
ニタコンサルタント(株)	代表取締役 奈加博之	〒771-0122 徳島市川内町鈴江西38-2	088-665-5550 088-665-0115

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
日本工営(株) 四国支店	支店長 大場勝一郎	〒760-0033 高松市丸の内4-4(四国通商ビル5F)	087-811-2660 087-811-2665
(株)ニュージェック 四国支店	支店長 佐藤至紀	〒760-0017 高松市番町4-15-5(新英ビル)	087-834-7522 087-834-7523
パシフィックコンサルタンツ(株) 四国支社	支社長 大野晃司	〒760-0027 高松市紺屋町4-10(鹿島紺屋町ビル)	087-851-5645 087-851-5673
(株)パスコ 香川支店	支店長 武内哲朗	〒760-0055 高松市観光通2-2-15	087-833-1212 087-833-1219
(株)福山コンサルタント 四国事務所	所長 齋藤弘	〒760-0023 高松市寿町1-1-12	087-811-7120 087-811-7130
(株)富士建設コンサルタント	代表取締役社長 岡兵典	〒798-0015 宇和島市和霊元町2-4-15	0895-25-3344 0895-25-3663
(株)フジタ建設コンサルタント	代表取締役 藤田達也	〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字原87-1	088-698-2155 088-698-2134
復建調査設計(株) 四国支社	常務執行役員四国支社長 中山誠	〒760-0020 高松市錦町1-3-9	087-826-1911 087-826-1912
(株)芙蓉コンサルタント	代表取締役社長 大野二郎	〒790-0063 松山市辻町2-38	089-924-1313 089-923-5717
(株)松本コンサルタント	代表取締役 松本祐一	〒770-0811 徳島市東吉野町2-24-6	088-626-0788 088-622-1768
八千代エンジニアリング(株) 四国統括事務所	所長 高野浩二	〒760-0018 高松市天神前10-12(香川天神前ビル5F)	087-800-7409 087-800-7412
(株)四電技術コンサルタント	代表取締役社長 末澤等	〒761-0121 高松市牟礼町牟礼1007-3	087-845-8881 087-887-2205
(株)ワタリコンサルタント	代表取締役社長 矢野史明	〒787-0011 四万十市右山元町3-3-12-7	0880-34-3640 0880-34-2713

編 集 後 記

「JCCAしこく」第4号をお届けさせていただきます。

毎年のように繰り返される「豪雨災害」。今年も「令和2年7月豪雨」が発生しました。特に甚大であった熊本県人吉市をはじめ全国各地で大きな被害に見舞われ、現在も懸命な復旧作業が続けられています。被害にあわれた方々へのお見舞いと一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

今年は、新たにCOVID-19のパンデミックが発生しました。世界中でその終息へ向けた様々な取り組みが進められていますが、いまだ先が見えない状況が続いています。行動の自粛は、私たちのこれまでの生活様式を一変させました。建設コンサルタント業務においても、テレワークやWEB会議による打合せなどに取り組むようになっていきます。本編集委員会もリアル会議を取りやめ、メールや電話で対応してきました。

本号では、巻頭言「ネクスト「四国の夢」」を弊社四国支部長の末澤等が申し上げ、巻頭言として「四国地方整備局における働き方改革と担い手確保等の推進について」と題し、四国地方整備局長丹羽克彦氏にご寄稿いただきました。

また、今回の特別寄稿としては、「高松藩を測った人」と題して、江戸時代の高松藩出身の科学者である「久米栄左衛門」を「香川県立ミュージアム学芸課」の御厨義道氏に執筆をいただきました。

そして、本号から新たに「優秀建設技術者表彰」の方々のプロフィール等をご紹介し、皆様のご功績を称え、今後益々のご活躍をご期待したいと思っております。

私たちの建設コンサルタンツ協会四国支部においても、「新・担い手三法」の改正に伴う「公共工事に関する調査等」の役割を改めて認識し、その更なる品質向上に努めるとともに、本機関誌が、会員だけでなく官公庁や自治体の皆様にもお役に立つ情報誌となるよう努めて参ります。

今後とも皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集委員

委員長 右城猛

副委員長 岡兵典、河野一郎

委員 田村猛、小川修、山下敬吾、藤本憲洋、三枝茂樹

JCCAしこく Vol.04

2020年8月発行

編集 (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 広報委員会

発行者 (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 末澤 等

印刷所 株式会社 美巧社

発行所 (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部

〒760-0006 高松市福岡町3-11-22 建設クリエイトビル4F

TEL 087-851-5881/FAX 087-823-8730

E-mail jcca@carrot.ocn.ne.jp



私たちは、四国に住む人々の安全・安心と
豊かな暮らしを守るため、
社会資本整備事業のあらゆる分野に携わっています。